

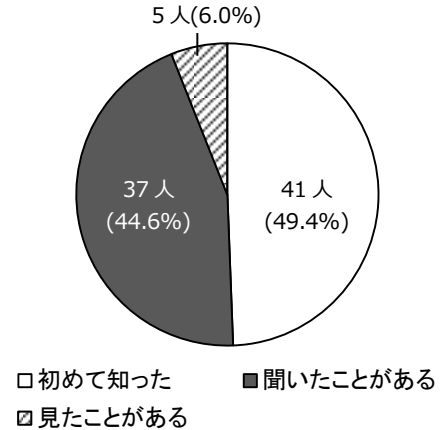
Ⅱ 結果の概要

1. 弘前市経営計画について
2. 重点プロジェクト
3. ひとづくり
4. 暮らしづくり
5. まちづくり
6. なりわいづくり

1 弘前市経営計画について

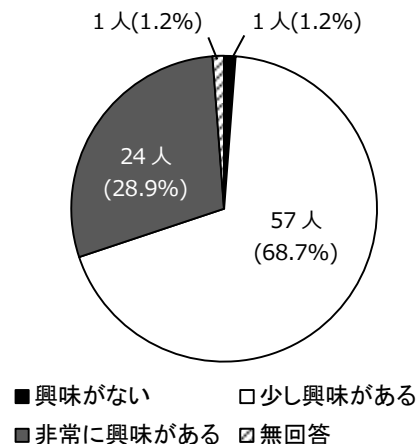
●弘前市経営計画をどの程度知っていますか

平成 26 年 5 月に策定した経営計画をどの程度知っているかを聞いたところ、今回のアンケートで「初めて知った」と答えた人は 41 人で、回答者の約半数の人が経営計画を知らなかったという結果となった。また、「聞いたことがある」と答えた人は 37 人となっており、実際に「見たことがある」と答えた人は 5 人とどまった。



●弘前市経営計画にどの程度関心を持っていますか

経営計画に「少し興味がある」「非常に興味があると」と答えた人は合計で 81 人 (97.6%) となっており、今回初めて経営計画を知った人も含め、ほとんどの人が経営計画に関心を持っているという結果となった。



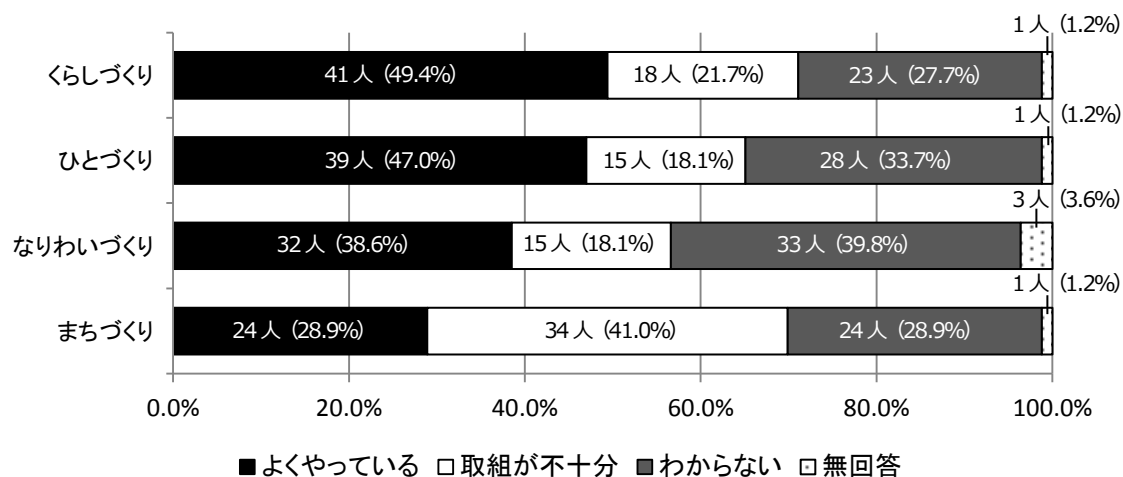
●各分野の取組についてどのように感じていますか

「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」「なりわいづくり」の各分野の取組について、どのように感じているかを聞いたところ、「よくやっている」と答えた人が最も多かった分野は「くらしづくり」で 41 人 (49.4%)、次いで「ひとづくり」で 39 人 (47.0%) となった。一方、「取組が不十分」と答えた人が最も多かったのは、「まちづくり」で 34 人 (41.0%)、次いで「くらしづくり」で 18 人 (21.7%) となった。

「まちづくり」については、「取組が不十分」と答えた人が、他の分野の約 2 倍となっており、「よくやっている」と答えた人が 24 人 (28.9%) と他の分野と比べて少ないことと整合する結果となった。これは、「まちづくり」の分野は、雪対策や道路環境、廃棄物対策など日常

生活に密接な取組が多く、年代や職業等に関わらず、より快適な生活を望む人が多いことが要因であると推測される。

「なりわいづくり」については、「よくやっている」と答えた人が32人（38.6%）となった一方、「わからない」及び「無回答」の人が合計36人と回答者の4割を超える結果となった。これは、「まちづくり」や「くらしづくり」の分野に比べ、普段の暮らしにあまり関わりがないという人が多いことが要因と推測される。



経営計画は、弘前市の20年後の将来都市像の実現に向けた戦略等を定めた地域づくりの最上位計画であり、上記の結果に示されるとおり、市民も高い関心を持っている。

しかしながら、今回のアンケートで経営計画を初めて知った人が半数近くいたことや、各分野の取組について「わからない」と答えた人も多かったことから、経営計画とそれに基づく取組・成果等について、今後、更なる周知を図っていく必要がある。

2. 笑顔ひろさき重点プロジェクト（人口減少対策）

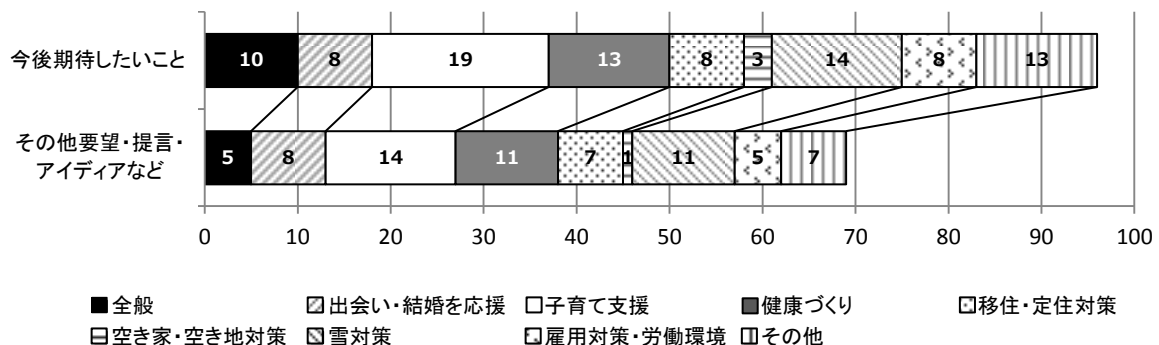
人口の大幅な減少抑制を最重要課題として設定し、4つの分野別政策の中から、「産み・育てたいまち「ひろさき」」、「いきいき・健やかなまち「ひろさき」」、「冬も快適・住みたいまち「ひろさき」」の3つの観点に該当する取組を抽出して取りまとめ、人口減少による社会的影響の緩和に向けた取組を分野横断的に推進。

「笑顔ひろさき重点プロジェクト（人口減少対策）」の取組についての自由意見

「笑顔ひろさき重点プロジェクト（人口減少対策）」の取組について、「今後期待したいこと」、「その他要望・提言・アイデア」について意見を聞いた。

「今後期待したいこと」については96件の意見があり、分類すると、安心して産み、育て、子どもの声が聞こえる街になってほしい、子育てによる様々な負担の軽減など子育て支援に関する意見が最も多く19件となっている。次いで、冬期間の快適な生活を望む雪対策に関する意見が14件、健康づくりに対する意見が13件となっている。

「その他要望・提言・アイデアなど」については69件の意見があり、分類すると、経済的支援や子どもを育てる環境の充実など子育て支援に関する意見が最も多く14件、次いで健康づくりに関する意見、雪対策に関する意見がそれぞれ11件となっており、「今後期待したいこと」と同様の傾向となっている。



【このプロジェクトで今後期待したいこと】

●プロジェクト全般 10件

- ・弘前市の人口の減少をなるべく抑えてもっと街が活性化してのびのびと暮らせるような弘前市にしてほしいです。(10歳代・男性)
- ・弘前市の良さはたくさんあると思っていますし、様々な事業も行われているため、もっと多くの若い方が良さや事業に気付き、弘前で子どもを産んで育てたいと思ってもらえたらいいと感じました。人口が減少するのではなく、増加していくことを期待したいです。(10歳代・女性)
- ・人口減少は、経済発展においてマイナスの要因なので、是非歯止めをかけて欲しいと願っています。(30歳代・女性)
- ・地域の人口減少を緩やかにするために、市民の一人一人が意識を高めていけるような持続性のある政策を浸透させてほしい。(30歳代・女性)

- ・重点プロジェクトⅠ～Ⅲの事業が市民に広く認識され、さらに具体的事業が充実されていくことを期待しています。(50歳代・女性)
- ・人口減少対策にはすごく関心を持っています。市の考え方や対策については理解できます。特に対策についてはより効率的に具体的に短期間に進めてほしい。(70歳以上・男性)
- ・人口動態を各地域毎各町会毎に調査して早急に市民に知らせ、人口減少の動きに関心を持たせてほしい。(70歳以上・男性)
- ・「笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)」のタイトル(特に笑顔がすばらしい)、三つの重点プロジェクト「産み・育てたいまち」「いきいき・健やかなまち」「冬も快適・住みたいまち」それぞれが分かりやすく好感が持てるネーミングで関心を引きつけられました。(70歳以上・女性)
- ・「笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)」の主な事業について、就職や進学で県外に流出しがちな若者にとって、ふるさと弘前が将来の夢を叶えられそうな場所になるように、また、子育て中の世代にとっては、安心して仕事ができるように、高齢世代にとっては除雪や買い物、医療への不安がないまちがイメージできました。(70歳以上・女性)
- ・「笑顔ひろさき重点プロジェクト」をしっかりと推進していただきたいのですが、政策推進の前提として、もっと現状を認識、政策の必要性の認識、市民一人一人の権利だけでなく責任の認識を高める必要があるのではないのでしょうか。これらの政策の背景と運用の必要性、市民の協力について、まずは、教育・啓発を徹底すべきと思います。行政が、教育や啓発に関わる難しさや限界も理解しているつもりですが、人口減少はまぎれもない事実であり、それがもたらす将来像の予測も極めて現実的で、深刻なことを考えれば、まず、弘前市民への教育的、啓発的活動が今後の政策運営の前提である気がします。(60歳代・男性)

●出会い・結婚を応援 8件

- ・出会いの場の提供。(10歳代・男性)
- ・人口が減少してきているとのことなので、婚活をどんどん増やしていき婚姻率を高め、子どもを増やしてほしい。(10歳代・女性)
- ・出会い・結婚を応援している対策について、いわゆる婚活などは30~40代の人が多いと聞くため、20代などに限定し、若いうちからそういった場に興味持たせる。(20歳代・男性)
- ・若者の出会い、結婚を期待したい。(40歳代・女性)
- ・弘前めぐりあいサポーター出愛創出事業に期待します。消極的な若者が多いと思うので、この事業で結婚につなげ、子どもの数も増えたらいいなと思います。(50歳代・女性)
- ・出会い、結婚の応援に期待したい。(60歳代・女性)
- ・結婚を応援。(70歳以上・男性)
- ・結婚適齢期男女の結婚願望が希薄になってきているように感じる。理由として、低所得が最大の理由だと思うし、女性から見た現代の男性像は頼りがいがない、魅力を感じないと考えているのではないか。出会いの場づくりにもっと力を注ぐべきだ。(70歳以上・男性)

●子育て支援 19件

~10歳代の意見~

- ・弘前がもっと住みやすい街になりそうだと思います。子育て支援もあるので、女性にとっても安心だと思います。(女性)
- ・子供を育てていく環境がまだ整っていないと感じるので、安心して子供を産めるように、仕事復帰しやすい環境にしていってほしい。(女性)

- ・3つの観点の中で一番関心を持ったのが「産み・育てたいまちひろさき」でした。私も女性として将来子どもを産みたいとは思いますが、仕事をある程度してからという考えもあり、なかなか安易には子どもを産むまでに至れないというのが現状です。私と同じような考えの女性も多くいると思うので、あんしん子育て応援により、安心して子どもを産める、産みたいと思うような市にしてもらいたいです。(女性)

～20 歳代の意見～

- ・不妊治療について、現在の晩婚化によって、不妊治療は需要が増している。産みたいのに産めないという夫婦への負担軽減への助けとして効果があると市外からも注目を浴びるのではないか。(女性)

～30 歳代の意見～

- ・子育て支援には力を入れて欲しい。(男性)
- ・子どもを産み、育てるためには、母親はもちろん、周囲のサポートは欠かせないと感じています。(女性)
- ・プロジェクト1～3についてとてもよく考えられていると思う。ただ、現在小さい子を育てており、実・義両親共に県外で暮らしている我が身としては、今後、子ども中心ではなく、母親中心の施策に期待したい。(女性)
- ・子育てに係る様々な費用の軽減、子育て支援の拡大。(女性)
- ・出産・保育・教育にかかる金銭的負担の軽減措置。(男性)

～40 歳代の意見～

- ・子育てによる様々な負担の軽減。(女性)
- ・出産、子育てに関して「弘前市で子供を育てたい」と心から思えるようになってほしい。子育てのしやすい町をつくる事で、やがて若者、子育て世代の定住化につながり、活気ある明るい市になればよいと思う。(女性)
- ・子供、子育てにかかる給付費の支給。(女性)
- ・子供を複数産めるための経済的な支援。(男性)
- ・不妊治療は、長期にわたり、精神的・経済的に負担だと聞くので、不妊治療費助成は出生率向上につながると思います。(女性)
- ・近年増えているDV等の相談所等の情報提供及び一人親(別居時)に対する援助。(女性)

～50 歳代の意見～

- ・私の町内でも子供が少なくなっています。安心して産み、育て、子供の声が聞こえる街になってほしいです。(女性)
- ・「産み・育てたいまちひろさき」に係る事業メニューは、間接的または長期的にみると、それぞれ有意義で人口減少の歯止めになる事業だと思います。しかし、対策の進め方に「分野横断的に推進する」とありますが、これは抽象的で、実効性がないからだ、と感じます。一人の女性が子どもを産み、働きながら、安心して複数の子どもを育てるのに必要な支援、対策を制度化することが急務ではないでしょうか。それぞれ環境が異なるため、複数の支援パターンを考える必要がありますが、具体的に積み上げ、まとめることが必要だと思います。(女性)

～70 歳以上の意見～

- ・出産後の各種給付や支援事業は、それなりに充実していると思います。(男性)
- ・人口減少対策を図るためには、三人以上子供がいる家庭には子供手当を助成すること。(男性)

●健康づくり 13件

～健康増進～

- ・人口減少対策で、健康診断などの支援を充実させることは、良いことだと思います。弘前市だけでなく、青森県の短命県返上にもつながると思います。(10歳代・女性)
- ・健康づくりサポーターや雪対策は特に町会の力が必要である。(60歳代・男性)
- ・ひろさき健康増進リーダーに体操教室等でお世話になっています。今後も活躍の場を広げてほしい。(40歳代・女性)
- ・ひろさき健康増進プロジェクトは、健康保険の種類を問わず参加できるのがよいと思う(一時期、地区の健診は、「健保協会(会社員)」の加入者は断られたことがある)。(50歳代・男性)
- ・岩木地区で行ってきた健康増進プロジェクト事業は、地域住民の意識改革をするうえで有効な事例だと思います。弘前大学医学部社会医学教室との連携はとても良いことだと思います。今後他の地区でも推進してもらいたいと思います(健康診断や検診率の低い地域を狙うなど)。(60歳代・男性)
- ・ヒロロにおける健康チェックや運動教室などとても良いことですが、もっと市民へアピールして浸透を図っていただきたい。(60歳代・男性)
- ・健康維持に役立つ施設等の整備・情報の提供。(40歳代・男性)
- ・喫煙率の大幅な減少対策、禁煙推進運動を展開してはどうかと考えております。中高校生や女性の禁煙に結びつけてもらいたい。(60歳代・男性)

～ヘルスリテラシー(健康教養)～

- ・ヘルスリテラシーを子どもたちに教えることで、健康に対する意識が高くなり、長いスパンをかけて弘前市の平均寿命がのびること。(20歳代・女性)
- ・子どもの健康について焦点を当てるのは意識を高めるきっかけになるのではないかと。(20歳代・女性)
- ・外食産業に関して子どもの健康に留意したメニューの展開を応援する施策を期待したい。(30歳代・女性)
- ・子どもから始める健康教育。(70歳以上・男性)
- ・ヘルスリテラシーという言葉は一般市民には浸透しにくい言葉だと思います。青森県が「短命県返上」をコマーシャルしているように、弘前市も健康増進に関するわかりやすい標語を掲げてもらいたいと思います。(60歳代・男性)

●移住・定住対策 8件

- ・弘前市への移住の促進(特に学生の受け入れ)。(10歳代・男性)
- ・市外から引越してきたが、弘前の住み心地はとても良いと感じ、できることなら大学卒業後も住み続けたいと考えているので「住みたいねHIROSAKI」イメージアップ戦略事業は、非常に期待したい。ターゲットを学生にするのも良い。具体的には、どのようなプロモーションをするのが気になる。(10歳代・女性)
- ・市内の人が集まるだけでなく、市外、県外からも人が来てくれるようにしてほしい。(10歳代・女性)
- ・社会移動対策。(40歳代・男性)
- ・住んでいいかも弘前。(70歳以上・男性)
- ・弘前市が住みたいまちづくりのために様々な取り組みや事業を展開していることはとても良いこと

だと思えます。恵まれた自然環境、豊富な食材、四季折々北国ならではの暮らしがある弘前市は住んでいる私自身が魅力を感じています。若者や県外からの定住者受け入れ促進のため、全国で先進的に取り組んでいる地域を訪問し、市の施策に反映させてもらいたいと思えます。(60歳代・男性)

- ・養老孟司氏が運動を展開している「オーライ！ニッポン会議」やアクティブシニア世代のワープステイ（里山留学）、グリーンツーリズムなど様々な展開をして弘前市をアピールしてもらえればと考えます。また、この件については市役所のホームページから切り離して独自の観点から都市に住む若者へアピールをしていった方が良いと思えます。加えて、「ひろさき未来戦略研究センター」のスーパーバイザーに涌井雅之氏を迎えたように、各施策におけるシンクタンクなる専門家の助言も必要になると思う。(60歳代・男性)
- ・りんご園がどんどん減少しています。農地はただ同然なので、都会から移住してりんご農家として生活できるシステムをつくって欲しい。(50歳代・男性)

●空き家・空き地対策 3件

- ・空き家・空き地の利活用事業。(50歳代・男性)
- ・空き家のニュースはよく聞き人々の関心も高いので、推進していく必要があるだろう。(20歳代・女性)
- ・空き地等の解放（子どもの遊び場や冬は雪置場として活用）。(40歳代・女性)

●雪対策 14件

～10歳代の意見～

- ・雪対策。(男性)
- ・冬は本当に寒さが厳しいので雪対策の取組に期待したい。(女性)
- ・道が狭く、冬は雪もあり登校や移動がとても大変なため改善してほしい。(男性)
- ・冬は雪によって歩道も道路も狭くなるから、除雪などに力を入れてほしい。(男性)
- ・冬の雪対策を良くして、冬でも歩きやすくなる。県内では大学が多い地域なので、学生が弘前で就職してくれるようになる。(男性)

～20歳代の意見～

- ・細い道だが、人通りの多いところは非常に危険なので、効果的な雪対策に期待したい。(女性)

～40歳代の意見～

- ・老後も豪雪地帯の弘前で快適に暮らせる行政サービスの充実。(男性)

～50歳代の意見～

- ・道路等融雪対策推進事業。(男性)
- ・ある程度歳を重ねた人が、冬、外に出ようと思う雪の対策。(女性)

～60歳代の意見～

- ・雪の問題が大きだと思う。毎朝の雪片づけ、玄関や車庫の前におかれる雪の塊、一日一日と道幅が狭くなる等。(女性)
- ・消流雪溝とか雪置場に困っている地域をどうするのか。何らかの配慮があればいいのだが（ある地域とない地域の格差解消）。(男性)

～70歳以上の意見～

- ・毎年多額の除排雪費を計上している割に、生活道路の雪対策は何の変化もない、というのが実感である。冬季の雪対策が改善したと言えるような成果を特に期待したい。(男性)

- ・「冬も快適・住みたいまちひろさき」が実感できる「ひろさき」を切に願う。雪が沢山降れば、年寄りや道路まで出るための雪掻きも出来ず、閉じこもり、運動不足、うつ状態と連鎖・ひいては短命に。(女性)
- ・「冬も快適・住みたいまちひろさき」になれば、U ターンの若者が増えるかも。埼玉の大学に通う孫は「雪片づけをしなくても良かったら青森の就職も考えてもいいんだけど」という話をしていました。(女性)

●雇用対策・労働環境 8 件

～30 歳代の意見～

- ・人口減少対策として出生数も大切ですが、若者が働ける環境（就職率向上）を目指すべきだと思う。(男性)
- ・このプロジェクト進行にあたって最重要と言えるのが給与の問題ではないでしょうか。就職率（正社員として）の問題、給与問題の大幅な改善の前に、産みだとか、住みたいとか、現実問題ははっきり言って無理だと思います。このようなプロジェクトの前に改善すべきこと、それをしたうえでのものだと思います。(男性)
- ・人口減少対策については資料を見る限り、しっかりと取り組まれていると感じた。ただ、子育てするにも、移住者を増やすにも、産業というか「働く場所」がないと生活できないと思う。雇用促進や就業支援は別のプロジェクトがあるのだろうか。産み育てる世代を定住させるには、「雇用」も大切なポイントだと思う。(女性)

～40 歳代の意見～

- ・弘前への移住は、就職が大前提。大企業の誘致、賃金の向上、経済力が乏しいための離婚を防ぐ。(女性)
- ・残業を減らし、家族と共に過ごせる時間を増やすよう、企業等への働きかけ。(女性)

～50 歳代の意見～

- ・就労の場と賃金格差が人口流出、少子化の原因なのだろうか。精密機器の組立てと介護関係が若年者の就労の場であるのなら、もっと賃金に対して補助する等の取組が必要なのか。介護施設が増えていのに職員の離職率が高く、低賃金であるのはどうしてか。住宅手当が出ないような職場の若者家族には、手当や住宅をあっせんしても良いのでは。(女性)
- ・人口減少対策を図るには若者が安定した収入を得られる就労環境を整えられる政策が重要であると考えます。「結婚はしたいが一緒に暮らしていく自信がない」と聞くことが時々あります。(男性)

～60 歳代の意見～

- ・弘前市としては今後将来へ向けて若年女性人口と同世代の男性の減少に歯止めをかけなければいけないと思います。この世代が弘前市で生活していくために、農工商の各分野での雇用の場の確保や促進事業が必要であると思います。(男性)

●その他 13 件

～10 歳代の意見～

- ・イベントが最近色々なところで行われていてとてもよいと思うが、行われる場所をもっと増やしてほしい。あちこち空いている場所があるのだから、市内各地でイベントが行われてほしい。(女性)

～30 歳代の意見～

- ・これからの弘前を担っていくのは子ども達。こういった取組でいろんな意味で優秀な子が育って欲しい。弘前の歴史や文化を教えつつ、外のあらゆる人・環境に触れさせどこに行っても臆することなく、「弘前市出身です」と胸をはって自信を持って言えるような教育を期待します。(女性)

～40 歳代の意見～

- ・産み育てたい、住みたい、のきっかけ作りに対する意欲は充分に感じられる。きっかけの次の継続するための取組までみえれば、もっと魅力的なプロジェクトだと思う。(女性)
- ・結婚適齢期といわれる成人に対して、出会いから出産、子育てまでサポートの計画がなされ、非常に恵まれた時代だと思う。しかし、個人で楽しむ類の遊びの多様化などから、肝心の「人を好きになる」「人と同調して暮らす(家族)」「自分のためにも家族のためにもがむしゃらに働く」など心の成長が足りていないために晩婚化が進んでいるように感じる。せっかくのサポートも効力低減だと思う。核家族化も子供中心になりがちで、成長を遅くしていると思う。中高生や青年に対し、社会や生活についての教育を徹底して行い、心を育む取り組みが必要と思う。(男性)
- ・「私、弘前大好き」とよく耳にします。その声が、内側ではなく、外側に向かってもっともっと大きな声で叫ばれるようになれば、叫ぶことが恥ずかしくなくなれば、叫びたくなれば、もっと素敵な弘前が見えてくると思います。そのために、次から次へとアイデアを絞り出してください。(女性)
- ・困っている人に親切な町であってほしいです(福祉面等)。(女性)
- ・個人への補助金、税金等の優遇。(女性)

～50 歳代の意見～

- ・弘前市が住みやすく、豊かなマチになること。(女性)
- ・どこかの年代だけにとどまらず対策をしたい、しなくてはならないという思いが伝わっては来る気がします。限られた財源でどこからどのように手を付けようとするかが見えてこない気がします。誰も自分中心に何かがされることを期待するとは思いますが、情に流されず対策を進めることを望みます。(女性)

～60 歳代の意見～

- ・市がまとめた将来の人口推計による今後の出生数の減少には、市の将来を考えると相当な危機意識をもって取り組まなければならないと考えます。市が策定したH27の重点Project I 39事業については、正に分野横断的対処であると思っておりますので、この成果の検証をして、効果のあるものについては継続していただきたいと思っております。(男性)
- ・良いと思う。(男性)
- ・町会との連携を強めて活動を展開する。(男性)

～70 歳以上の意見～

- ・いろいろな事業をやっていることを初めて知った。広報ひろさきに載っていたのかも。あまり読んでいませんでした。私のように知らない人がいっぱいいるのではないかと思います。(女性)

【その他要望・提言・アイデアなど】

●全般 5件

- ・女性として、とてもすばらしいプロジェクトだと思います。(10歳代・女性)
- ・人口減少問題について対策を講じるために、もっと市民の意見を聞き、人材を活用することが必要だと思います。そのために、市長をはじめ幹部がきちんとした見通しと対策を持っていただくことと、市の職員がそれを共有することが前提だと思います。行政が危機感をもっていなければ、市民の危機感も、さらに薄くなります。市民が自分の問題として認識しなければ、政策は実効あるものにはならないと思います。(60歳代・男性)
- ・人口減少は大変な問題です。このままでは地域が成り立たなくなります。何より経済が活性化すれば人は集まってきますが、それはなかなか難しく、コンパクトシティにしていくしかないのでしょうか。(50歳代・男性)

- 人口減少問題について、詳細なデータを示して頂きたい。もし、不足するデータがあれば、調査を実施して頂きたい。そのうえで、きちんとした分析をして頂きたい。さらに、それを市民に公開して、自分たちの将来のこととして、危機感をもっと持つよう啓発することが必要だと思います。(60 歳代・男性)
- 日頃、「広報ひろさき」で目になっている様々な取組が、この「プロジェクト」の元に展開されていることに気がつきました。20年先を見据えた戦略推進システムの中に「市民行動プログラム」のもと「協働による地域づくり」など「オール弘前体制」で取り組むなど本当にすばらしい「プロジェクト」だと感じました。実現に近づけるように、多忙の中で生活をしている市民の方々との共有、協働のために丁寧な広報を繰り返すことが大切だと強く感じました。(70 歳以上・女性)

● 出会い・結婚を応援 8 件

- 弘前めぐりあいサポーター出愛創出事業については、テレビ「ハッピー」で以前紹介していたので知っていた。私のように、テレビ番組を見ていて、事業のことを知る人はたくさんいると思うので、もっとテレビ番組を活用していけばよいと思う。(10 歳代・女性)
- 遠方からの学生などの若者も多いため、その出会いの場で生まれたカップルに市に住んでもらうような特典を付ける。祝い金、家、仕事など。(20 歳代・男性)
- 市で提供する出会いの場では、若者はなかなか集まりにくいのでは？従来のさくらまつりやねぶたまつりを充実することの方が自然な出会いの場の提供につながると思う。名称が漠然としていてわかりにくい。(40 歳代・女性)
- 合コン活動も聞くが、それによってできたカップルに応援する活動も（本人達が望めば）あったらいいかも。(60 歳代・女性)
- 「出愛創出」、「不妊治療助成」、「こども園給付」等は、産みたい、育てたい方々への支援としては有効と思います。しかし、そもそも、合計特殊出生率が全国レベルより著しく低い数値が示しているのは、「産みたいけど産めない」方だけでなく、「産みたくない、産まない方がいい」という方が多いということではないでしょうか。そこには、例えば、SNS の問題や、いじめ、男女の健全な意味での性的関係の希薄化などに認められる若者のコミュニケーション関係の歪み等も影響している気がします。市民の社会的責任感の薄さや、若者のコミュニケーションの問題など、そもそもの「産みたくない、産まない方がいい」という意識に対する対策を検討しなければならないのではないのでしょうか。(60 歳代・男性)
- 行政だけでなく、民間主導の出会いの場づくりをもっと多く、より広くして参加しやすい雰囲気づくり。(70 歳以上・男性)
- 個人のプライバシーもあると思うが、公務員特に市役所職員の結婚を期待する。そのため、「結婚しよう」の意欲・奨励を内部で検討・実践してみてもどうだろうか。(70 歳以上・男性)
- 21 世紀は、女性と心の時代と言われている。女性に対して今まで以上に光を与え、活躍する場を与えるべき。特に未婚の女性に子供と結婚について強力的にアピールすべき。(70 歳以上・男性)

● 子育て支援 14 件

～10 歳代の意見～

- 子育て支援では、母親だけでなく父親にも参加しやすい場や父親の役割などを説明する支援もあると、もっと良いと思います。(女性)
- 子育てをする上で一番の問題は、育児と仕事を両立できない、お金がかかるということだと思うので、まずは大きい企業、会社が先頭になって、会社内に育児施設をつくり、同じ会社内で子どもと親が居られる環境をつくると思います。(女性)

～20 歳代の意見～

- ・子供の数に応じた助成金制度。3 人目の子どもを出産したら 30 万円などというように助成金を出すことで、経済的な負担を理由に産めない人の出産を促進できると思う。(女性)

～30 歳代の意見～

- ・「育児サポート」となるとどうしても子ども中心の施策になりやすいので、いかに母親が子どもと離れて（もしくは少しの間目を離して）いられる場を増やすかといった視点を入れてほしい。結局、子どもの精神の安定は母親のメンタルにかかっているから。(女性)
- ・働く女性が増えている今日、女性の社会進出はもちろん大切でこれからの社会には必要不可欠なことです。しかしながら、子育てにおいてもやはり女性（母親）は必要不可欠な存在です。安心して子どもを預ける環境づくりも大切ですが、安心して母親自らが子育てできる環境づくりも大切なのではと思います。子どもとふれあいたくても時間が無くそれが出来ない人もたくさんいます。学校行事に参加できない人もたくさんいます。子どもの面倒を親ではなく、おじいちゃんおばあちゃんが見ている家庭もたくさんあります。考え方が古臭いのかもかもしれませんが、子どもにはそばにいてくれる親が必要だと思うので、お母さんお父さんが作ってくれるご飯が必要だと思うのです。ほんの少しでも子どもと親がふれあう時間や機会が増えたらなと思います。(女性)
- ・核家族であれば、特に父親の家事・育児への協力は不可欠なので、具体的な事例を学生に紹介する機会を設けると良いのではないかと考えます。(女性)

～40 歳代の意見～

- ・多くの子供を育てるためには、養育費、教育費などがかかります。3 人以上の子供がいる家庭に何か優遇されるものがあつたらいいと思います。(男性)
- ・複数の子を産んだ家庭に対し、補助金の交付や教育費の援助、提携店で割引になるカードの発行。(男性)
- ・冬の雪対策と子育て世代への給付金などがもう少しあればありがたいです。(女性)
- ・多くのサポートがあるとはいえ、子育て世帯にとっては一昔前よりも子供のために時間をとられる事が多い気がする。スポーツ少年団などは一見素晴らしい活動のように思えるが、懸命すぎると生産活動に支障があり、方や預けっぱなしもできないので出番が増えるとそれも生産活動に支障が出る。子育てのために働くことが重要とすれば本末転倒。親が安心して仕事に取り組めるよう、「学校での部活を復活」「児童館設置」など児童の放課後を面倒見て頂ければと思う。(男性)

～50 歳代の意見～

- ・安心して子育てするためには、制度、環境が整っていることが必要です。一人の女性が働きながら子育てをするためには、①子どもを安心して、いつでも預けることができる施設があること、②子どもを看病するため、安心していつでも、仕事（会社）を休むことができること、③赤ちゃん、幼児と母親の心が触れ合うための時間が十分に取れること、④子育てをするための経済的負担がないこと、が必要と考えます。例えば、ワークライフバランス啓発事業で、企業を含めた地域の子育て環境の向上に直接的に寄与するとは思えません。啓発活動は必要ですが、一人の女性が、働きながら安心して、子育てをするための具体的な支援制度を確立し、わかり易く表示することが大切です。一人の女性に対する具体的な支援制度の明示が必要だと思います。(女性)
- ・子供を増やすには、経済的な面や医療など、細かい施策が繋がって効果があると思うので、きめ細かい施策を市民にわかりやすく広めてほしいです。(女性)
- ・地域（地区）単位での子育て支援の拠点を活性化させ子育てを通して地域のつながりを深めるようにする（悩み事を解消し、楽しい子育てになるよう支援する）。(女性)

～70 歳以上の意見～

- ・出産し、産休が終われば、子供は保育所に預け、親は仕事に追われる日々が続く。高齢者家族が一緒に生活していれば、子供は家族全員で育てられるし、わざわざ保育所に預けに行く事もない。ひと

昔前の話と思うけれど、実はこれこそが、人づくり、くらしづくりに繋がるのではと思う。家が狭くて親と住めないと思っている人達に助成を。(女性)

●健康づくり 11件

～健康増進～

- 地区、職場ぐるみで禁煙に取り組むことによるたばこの害への意識の向上(がん、周囲への影響等)。例えば、社内報や専門家の講演会などで、運動に対する興味の喚起、食に対する問題意識を持つ方向へ。(50歳代・女性)
- 運動教室や健康講座等を町内会の公民館等で行っていますが、各家庭の味噌汁を持参し、塩分濃度を計測してもらい、塩分を控える食事を心がけてもらう。(50歳代・女性)
- 命の大切さをもっと強力に市民に訴えてほしい(いろいろな活動を通じて)。(70歳以上・男性)
- 健康教育をそのまま推進していくと数年後が楽しみである。30～40代の意識を高めていくことが大切。(60歳代・男性)
- ヒロロや運動教室等をひらいても、働き盛りの40～50代の参加は見込めるのだろうか。(20歳代・女性)
- 健康面について寝たきりとなる一番の要因は脳卒中です。既に20代、30代で高血圧症等の基礎疾患を有する人は少なくありません。疾病発症後の二次予防・三次予防である合併症予防・リハビリテーションへの対策も健康寿命延長に必要ではないでしょうか。(30歳代・女性)
- がん検診について、検診の計画を立てて検査をうける。検診の結果が出たら、専門の人に来てもらい個々に説明をもらう。結果をみんなで見せ合い、健康について関心を深める。このような進め方を町会の保健委員などを中心に町会単位などで取り組めないものか。(70歳以上・女性)
- 私の知っている範囲では、保健委員は、年1～2回の研修にでるだけで、そこで学んだ知識を町会に持ち帰り、どのように活用しているのか、とんと不明。学んだ知識を保健委員としてどのようにいかせるのかと悩んでいる人もいると耳にした例もある。(70歳以上・女性)
- 冬期間でも格安で使用できる体育施設の充実(室内庭球場、公民館等でのジム施設の充実)、また高齢者でも気軽にできる健康スポーツ教室や、減塩料理教室、高齢者の外に出る気持ちを後押しする温泉補助券の配布。(40歳代・男性)

～ヘルスリテラシー(健康教養)～

- お子様メニューなどがあまりにも味が濃い、内容がフライやハンバーグに偏っているお店ばかりなので、例えば豆腐と野菜のつみれなど体によいお子様メニューを展開するお店を市としても応援するような施策をしてくれたら、毎日嫌でも子どもを外に連れ出して遊ばせなければならぬ母親としては健康面でとても助かります。(30歳代・女性)
- 「いきいき・健やかなまち ひろさき」については、どちらかというと、健康志向の方向けの政策になりがちで、健康であろうという意識の低さを変える政策になっていない気がします。人口減少対策の根幹は、物理的な数の問題でなく、地域の機能を維持する点が重要だと認識しています。ということは、高齢者の寿命の問題でも、健康寿命を上げることが大切なわけで、地域で生きがいや、役割を持って元気に暮らすお年寄りが増えることが、「いきいき・健やかなまち ひろさき」の意図だと思います。その意味で、「全世代を通じてのヘルスリテラシー」を育むというコンセプトが最も大切だと思います。(60歳代・男性)

●移住・定住対策 7件

- 相談やプロモーションには弘前そのものの魅力や問題を市民や市外の人々と発見、共有していく事業があってもよいのでは。ただ魅力を伝えるだけでなく、弘前の問題点を市民を巻き込む形で発見、共有、改善できるプロセスがあれば、若い世代の定住につながるのではないか。(20歳代・女性)

- 具体的に大学生が社会人になってからどうやって弘前に定住しやすくなるのかを教えてください。(20 歳代・女性)
- 移住に関して、他県からきた大学生に弘前の魅力をアピールし、卒業後に弘前に残る人を増やす。(40 歳代・女性)
- 高校以上の学生を対象として対策を取り、流出阻止。(40 歳代・女性)
- 移住相談員の活躍を期待します。(40 歳代・女性)
- 大学や専門学校が少なく、県外に若い層が出ていくのは必然となり、地元に戻ってくる事なく就職しているように思う。地元で専門的な学びができるような学校を作って欲しいと思う。(40 歳代・女性)
- 住んでいいかも！弘前のシティプロモーションは、弘前大学等の県外人にアピールして、弘前移住定住促進を図ってほしい。(50 歳代・女性)

●空き家・空き地対策 1 件

- 空き家・空き地の利活用。(70 歳以上・男性)

●雪対策 11 件

～10 歳代の意見～

- 札幌のように地下に歩行空間は作れないでしょうか。(女性)

～20 歳代の意見～

- 歩道の除雪。人通りの多い場所であってもほとんど除雪がされていない。(女性)

～40 歳代の意見～

- 県外から移住してもらうためには、冬の環境が重要だと思います。小型の除雪機を市で貸し出し(有料)して、対応するなどあったらいいと思います。(男性)
- 冬の雪対策と子育て世代への給付金などがもう少しあればありがたいです。(再掲)(女性)
- 除雪に対する一定年齢以上の費用補助、ミニバス等を使った買い物バスの運行、首都圏の大学生等に呼びかける除雪ボランティア広報活動。(男性)

～50 歳代の意見～

- 妻は県外出身で最初は雪が珍しくてよかったけれど、今では雪国では住めない、老後は帰りたいと言っています。除雪がもっと楽にできれば。長女は、雪道の運転が不安という理由で東京の大学へ行ってしまいました。(男性)

～60 歳代の意見～

- 雪対策の看板は、かかげられています、まだ、効果を実感できていません。雪は高齢者の居住の問題以外にも、市民にあまりに大きな負担を与えています。私の勘違いでなければ、福井市は、幹線道路はほぼ温泉水などで融雪しており、市民生活への影響は軽減されていると聞いています。最優先課題として取り組んで頂きたいと思っています。(男性)

～70 歳以上の意見～

- 雪の問題は住み良いまちづくりの必須条件だと思います。(女性)
- 旧市内の細い道、車がすれ違えないような道を融雪できたらいいなあと思っています。広い道は重機で出来ますが、細い道の人話を聞くと、1年に何回も除雪の重機が入ってくれないと言っていました。(女性)
- 除雪作業応援。(男性)

- 雪を楽しんだり、雪国に住む利点等何か良いアイデアはないものかと私自身考えることもたびたびあります。(女性)

●雇用対策・労働環境 5件

- 低賃金問題の改善。(30歳代・男性)
- 若者が結婚しないのは、出会いがないのではなく、お金がない、結婚しても暮らしていける自信がない、が一番大きいと思う。一般の中小零細企業で働く若者は、自分でもらう事はないであろう年金等を支払わされている。こういった無駄な出費がある。この出費を無くすのは無理だと思うのでそれを補うだけの収入が必要だと思う。働いても生活保護レベルでは結婚できない。(30歳代・男性)
- 弘前の全般的な低賃金状態から、多くの家庭では共働きが必須となっている。出産育児の為仕事を離れるのは、復職が困難なことも併せて、多大なリスクであると思う。(30歳代・男性)
- 魅力ある働く場があってこそ転出抑制、定住促進が出来るものと思います。工業系や理系を卒業または希望する人たちの職場がもっとあればいいのでは。起業支援事業は素晴らしいことで期待しますが、企業誘致は効果が大いだと思います。企業があれば関係者の往来も多くなり、宿泊・飲食業等への影響も大きいのではないかと思います。(40歳代・男性)
- 助成・支援ももちろん必要だが、労働に対して納得できるほどの対価が得られるまちであることがわかれば、もっと喰いつきがよくなるのでは。(40歳代・女性)

●その他 7件

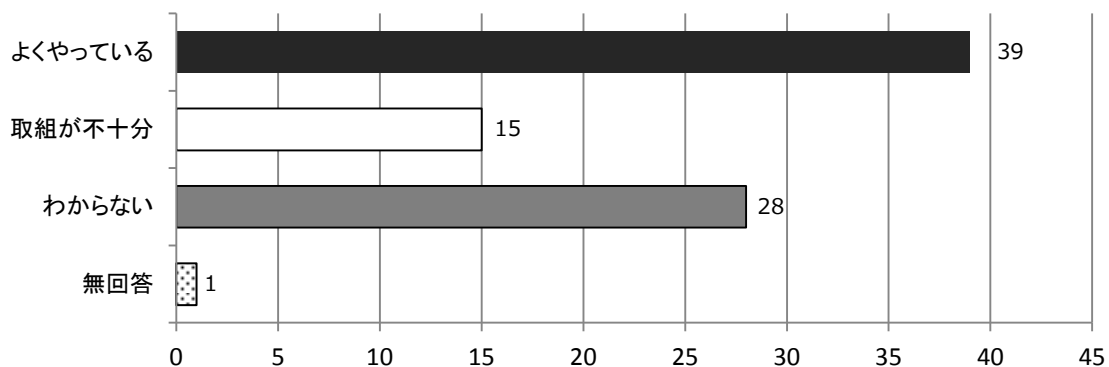
- 住みやすい街にするにはコミュニティの形成が必要だと思う。学生であれば、6大学間の交流の場が必要だと思う。育児でも、母親同士のコミュニティがあると、困った時に相談する相手が出てよいと思う。(10歳代・男性)
- 老人と赤ちゃん、それに関わる人たちが集えるサロンがあるとよい。(50歳代・女性)
- PR不足、PR下手。とにかく全ての事に共通する問題点だと思う。仕方ない事だが、表現がとっつき難く、内容が一見難しいものが大多数だと思う。高齢の方や忙しい方にも、何とか理解してもらい、色々な企画があることを知ってもらうことが大事だと思う。(40歳代・女性)
- 環境をつくることが一番大事だと思います。それに対する優遇措置(お金)も重要だと思います。(40歳代・男性)
- 町会や企業へ直接説明する機会はないのか。各分野で協力できる事があるのではないか。(50歳代・男性)
- ヒロロ3階の利用のされ方がもったいないと思います。公民館の役割をヒロロに持たせ、市民が集まり他人任せでなく自分の考えで利用されていくことが一番よいのではないかと見ていただきました。(50歳代・女性)
- 少子化という傾向は、もはや阻止できないのが実情ではないか。少子化が悪く、人口増を図ることがよいという考え方でよいとは思われない。少子化ということがデメリットだけだとは思われない。それに対応した社会のしくみ、構造を考えることも必要である。(70歳以上・男性)

3. 分野別政策 ひとつづくり

未来を担う人づくりを進めるため、結婚し、子供を産み育てるための環境づくりを行うとともに、確かな学力の定着や豊かな心を育む教育の充実を図る。また、多種多様な学習機会の提供や、文化・スポーツ活動を振興するなど、生涯学習の充実を図る。

「ひとつづくり」の分野における市の取組についてどのように感じていますか

「ひとつづくり」の分野においては、「よくやっている」と答えた人は39人(47.0%)となり、「取組が不十分」と答えた人15人(18.1%)を大きく上回っている。「わからない」と答えた人は28人(33.7%)となっている。



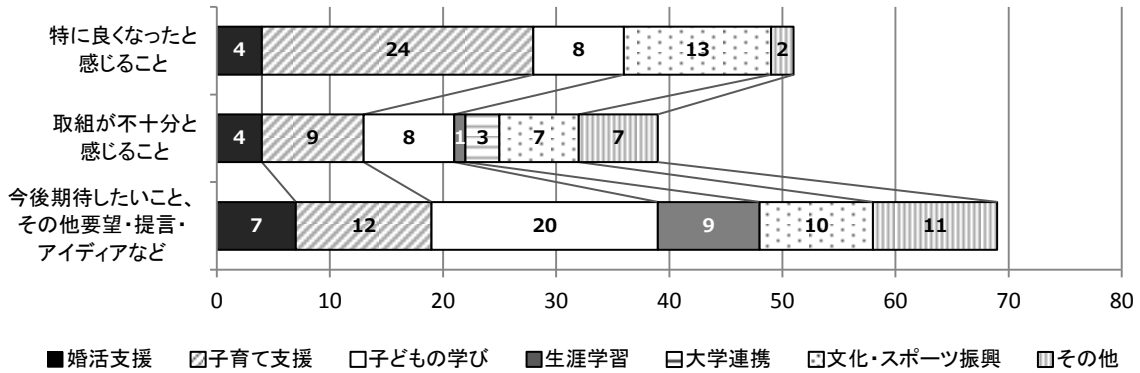
「ひとつづくり」の分野における自由意見

「ひとつづくり」の分野について「特によくなったと感じること」「取組が不十分と感じること」「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデア」について意見を聞いた。

「特によくなったと感じること」については51件の意見があり、分類すると、駅前こどもの広場の運営や子ども医療費の給付など子育て支援に関する意見が最も多く24件、次いで文化・スポーツ振興に関する意見が13件となっている。

「取組が不十分と感じること」については39件の意見があり、分類すると、子育て環境の整備やサービスの拡充など子育て支援に関する意見が9件、次いで子どもの学びに関する意見が8件、文化・スポーツ振興に関する意見が7件となっている。

「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデア」については69件の意見があり、分類すると、幼少期からの豊かな心を育む取組が必要、多世代の人とともに参加する事業があればよいなど子どもの学びに関する意見が最も多く20件、次いで子育て支援に関する意見が12件となっている。



【この分野で特に良くなったと感じること】

●婚活支援 4件

- ・独身者に出会いの場を提供する事業は、企画で出会い、結婚している人が増えていると思う。(30歳代・女性)
- ・出会いのチャンスを作ってくれる種々の企画はとても良策だと思う。(40歳代・女性)
- ・婚活パーティー等を行っているのは良いと思います。(40歳代・女性)
- ・農業従事者や若い方たちの出会いイベントが行われていますが、カップルになりゴールインした方には、特典(温泉一泊旅行など)があったらより盛り上がるのでは。身近にも参加して楽しかったと言う方がいます。(50歳代・女性)

●子育て支援 24件

～10歳代の意見～

- ・こども医療費給付事業は、所得が低い人にとっても子どもを育てやすい街だなと思う。(男性)
- ・子どもの給付金は子育てが大変な親にとってとても助かると思う。(女性)
- ・駅前こどもの広場運営事業により、こどもの遊び場が増えたこと。(男性)
- ・駅前こどもの広場運営事業。(女性)
- ・親子で楽しめるイベントや子どもを預けておける施設がありとても良いと思った。(女性)

～20歳代の意見～

- ・認定こども園等給付費や子ども医療費給付事業など、子どもをただ増やそうとするのではなく、その後のケアも助かる。(男性)
- ・駅前こどもの広場運営に関しては、平日・休日に多くの子供を目にする。また、休日のイベント等があり、それにも多くの人に参加しているように思う。このような場があることで、相談ができるだけでなく、同じ子を持つ親同士の交流も新たにできるのではないか。(女性)

～30歳代の意見～

- ・子育てしているママさんたちに駅前こどもの広場(ヒロロ)の評判は良い。(女性)
- ・子育て支援。(女性)

～40歳代の意見～

- ・まちなかおでかけパス、多子家族応援パスはとても助かっています。多子家族応援パスは毎年申請に行く必要がなくなり、助かります。(女性)
- ・子どもたちが体を動かせる施設が多くなったと感じます。(男性)

- ・駅前こどもの広場など、以前と比べると、子と親がそれぞれ交流できる場があり、とてもいいと思います。もっとたくさん増やして欲しい。(女性)
- ・小学生までの対策はよく頑張っていると思う。Wi-Fi、学習スペース、遊びのスペース等、以前とは比べものにならない程充実したと思う。(女性)

～50 歳代の意見～

- ・子ども医療費給付に関しては年令制限の拡大も必要かと考える。(女性)
- ・駅前こどもの広場について、雪国として冬場の活動の場があるということは、大事で必要性がある。(女性)
- ・駅前こどもの広場は子育て中の親子が交流できる場所で、孤独になりがちな親にとっては嬉しいことだと思う。(女性)
- ・子どもの分野では目に見えて色々な対策をしていると感じます。親が勤められるための手助けの場が欠々に設けられていると感じられるからです。(女性)

～60 歳代の意見～

- ・駅前こどもの広場については日常的に有効な運営がなされていることを実感できる。(男性)
- ・駅前こどもの広場は、「冬場は助かる」という意見を聞くことが多い。(女性)
- ・子育て負担の軽減。(男性)
- ・保育サービスや子どもの医療費等支援が多くなってきていると思う。(女性)
- ・保育等の給付費の支給や子ども保険診療の医療費負担などは、親にとってとても助かる、ありがたい制度だと思います。子育て支援事業については今後も財政の範囲内で広く展開されるよう期待しています。(男性)

～70 歳以上の意見～

- ・駅前こどもの広場は、子育て中の交流の場を通して相談、悩み、援助、子育てに関する講習等大変助かっていると思う。(性別無回答)
- ・ヒロロスクエアは、いつも市民の方々に様々な形で利用されていることが素晴らしいと感じています。特に、子育てエリアには、プレールーム、遊び場、お茶の間サロンなどで、子育て中の親子やお孫さんを見守る祖父母のほほえましい姿がオープンな形でいつも見うけられます。こうしたことは弘前では個人的にはこれまで出会ったことがない光景でした。あまりステキな空間なので、ヒロロから遠隔地の方々には、何かの形で招待するようなイベントなどもあればいいのかなとったりしています。(女性)

●子どもの学び 8 件

- ・子どもが英語を習うようになり、語学力アップにつながっている。(10 歳代・女性)
- ・英語教育への力の入れ方。ALT (外国語指導助手) を増やしたこと。(20 歳代・女性)
- ・多種多様な学習機会の提供に関しては、様々な企画も設けられ、スポレクなどの運動面にも配慮されているので、とても良いと思っています。(30 歳代・女性)
- ・教育環境は良くなっていると感じる。(40 歳代・女性)
- ・少人数学級の拡充。(60 歳代・男性)
- ・学びの協力員の配置は教師の負担軽減と生徒の指導上有効であると考えます。(60 歳代・男性)
- ・農業体験を通じて命と農業の大切さを理解させている。千年小学校における農村公園の活用 (やさしい中心)。他にりんごと水稲の体験学習も取り入れています。(70 歳以上・男性)

- ・地域の学校は、開かれた学校から地域とともに作り上げる学校へと少しばかり変化してきている。理由は、地域と学校の連携が、地域の教育力を高めようとする具体的な活動の結果による。まだまだ一部にとどまっているが。(70歳以上・男性)

●文化・スポーツ振興 13件

- ・文化・スポーツ活動が以前よりも多くなり良くなったと思います。現在、短命県青森と言われているので、このような活動が多くなることで、市民の健康にもつながるのではないかと思います。(10歳代・女性)
- ・ソフトボールの選手育成は、齋藤春香さんが直接指導をしてくださったことで、ソフトボール部の子達の意識がとても高まったと感じる。(10歳代・女性)
- ・文化・スポーツ活動はよくなっていると感じる。春香主幹による指導や講話の実施は今後も続けていって欲しい。(20歳代・女性)
- ・学習、スポーツの分野もでき、さまざまな活動を行っていて、市の子供たちへの期待や応援する姿勢がよくわかる。文化面ではもう少し様々な活動があってもよいと思う。(40歳代・女性)
- ・スポーツに関する事業によりスポーツの推進が進んでいること。経済面、交通面の補助があることで、スポーツをする人が増えているように思う。(20歳代・女性)
- ・青少年夢実現チャレンジ支援事業費補助金。子どもたちには夢をあきらめることなく、より大きな舞台を目指して活躍してもらいたい。(30歳代・男性)
- ・各種イベント・芸術・各行事も盛んに開催されている。(40歳代・女性)
- ・スポーツイベント開催が増えたことで、大人も子どもも、今まであまり関心がなかった分野にも触れることができています。(40歳代・女性)
- ・スポーツに関しては夢を持てる環境ができつつあると思う。(40歳代・男性)

～プロ野球一軍戦誘致事業～

- ・プロ野球が見れる可能性があること。青森県に住んでいると機会がなかなかないため。(10歳代・男性)
- ・プロ野球一軍戦誘致事業。(10歳代・女性)
- ・プロ野球の二軍の観戦を弘前でできてうれしいと言っていた友人がいたから、スポーツの振興はとても良いと思う。(10歳代・女性)
- ・運動公園をプロ野球の球場としようとしているのは、地域の活性化につながると思います。(10歳代・男性)

●その他 2件

- ・若い人たちの活躍があらゆる分野で見られるようになった感じがする。今までの人づくり、子育て、学校での育て方が芽が出てきているのではないか。(60歳代・男性)
- ・弘前市に若い人や親子が増え、店や観光地、祭りなどがにぎやかになり、弘前がより明るくなったところです。(10歳代・女性)

【この分野で取組が不十分と感じること】

●婚活支援 4件

- ・農家の嫁対策。(40歳代・女性)

- ・弘前は農家人口が多い。その中で農業男子の結婚について、出会いサポート等色々な企画をしているようだが、成果の面で疑問を感じている。出会いの場を作るだけでは結婚に結びつくのは難しい。(40 歳代・女性)
- ・出愛創出事業は行政がかかわる事業として必要ですか？お見合いまで税金でまかなうのはどうでしょうか。今はパソコンやスマホのなかでたくさん友達ができる時代ですが、もっと人が好きになって話せることができる教育が必要なのではと考えます。(50 歳代・女性)
- ・基本的に、産みやすい人への対策が中心で、産みたくなる対策が不足していると感じます。これは、弘前だけでなく日本全体の問題でもあります。国や、社会が存続するということについて、もっと根本的な議論をして、それを市民が共有することが必要だと思います。議論および啓発が少なすぎるのではないのでしょうか。(60 歳代・男性)

●子育て支援 9 件

- ・駅前こどもの広場運営事業について、弘前では電車通勤しているイメージがないので、駅前以外で設置すべきところがあるのかなと思った。(10 歳代・男性)
- ・弘前市で子供を育ててみて、子供たちと地域住民のふれ合う機会が少ないように感じます。(40 歳代・男性)
- ・子育て中の親子の交流の場提供について、駅前こどもの広場とありますが、もっと近場な学区や地域といったほうが、交流に参加しやすいのではと思います。(50 歳代・男性)
- ・子どもの医療費について、できれば 15 才までは無料にしてほしいという声が聞かれます。保育料、医療費の軽減に対する更なる助成が必要と思われます。(50 歳代・女性)
- ・女性が妊娠・出産期に退職となるケースが多いと思います。産休・育休をとり、スムーズに職場復帰することができれば、育児にかかる経済的負担が軽減できると思います。出産のために退職しなくてもよい支援を。(30 歳代・女性)
- ・共働きで仕事を休めない時の、病時・病後保育施設、サポート体制の拡充。(30 歳代・女性)
- ・病児保育をしてくれる場所を増やしてほしいです。風邪やインフルエンザの蔓延を防ぐことにつながると思います。核家族には、特に必要。(40 歳代・女性)
- ・父子家庭への援助。(30 歳代・女性)
- ・なぜ広い年代での取組が遅れるのかと感じる。子どもの分野（子育てするなら弘前市）というようにそこだけ特別ととれるからです。(50 歳代・女性)

●子どもの学び 8 件

- ・外国語に対する抵抗感を減らすためには、小学校低学年から外国語活動を行う必要があるのではないかと思う。(10 歳代・女性)
- ・小中学校のモデル校があることは知っているが、実際どのような事をしていてどのような効果があったのか情報が全く入ってこなくてわからない。(10 歳代・女性)
- ・中高生（特に高校生）に対する事業の不足を感じた。中高生のいじめや非行の問題からもわかるように、この頃の子どもは心身的にストレスや不調をかかえやすい。この事は、学校、家庭に任せるのではないと考える。(20 歳代・女性)
- ・小学校に通う子どもがおります。スポ少での活動のため、部活動への参加が制限されています。家の都合で子どもに我慢をさせている状況のため、どうにかして改善されないものかと感じています。(30 歳代・女性)
- ・子どもたちの郷土愛の醸成が、主な事業の中にない。(30 歳代・男性)

- ・学校や家庭における心の教育。(60 歳代・男性)
 - ・小中学生の各種交流推進事業が少ないような感じがします。こどもの社会性やコミュニケーション能力、グローバルな視点など、将来へ向けて感性を磨いてもらいたいと思います。(60 歳代・男性)
 - ・基礎学力の充実・向上。(60 歳代・男性)
- 生涯学習 1 件
- ・人づくり、地域づくりに欠かせない生涯学習が相当立ち遅れている。担当部門の職員、生涯学習とは、社会教育とは何か、何をどのように実践すべきか、一から始めよ。(70 歳以上・男性)
- 大学連携 3 件
- ・弘前大学との地域づくり連携事業だけでなく、他の弘前の大学とも連携していただきたい。(20 歳代・女性)
 - ・弘前大学と連携するのはとてもよいアイデアだと思うが、他の大学とも連携していけばよいのでは(例えば東北女子大と連携して、栄養についてとか食育教育)。(20 歳代・女性)
 - ・弘大の有効活用。例えば秋田総合大的な。(40 歳代・女性)
- 文化・スポーツ振興 7 件
- ・身近にスポーツに親しめる環境や市民自ら主体的に取り組むスポーツ活動への支援。(70 歳以上・男性)
 - ・主な事業が(文化事業もあるかとは思いますが)、スポーツに偏っているのではないのでしょうか。(50 歳代・男性)
 - ・プロ野球一軍戦誘致、球場新設については、市民の意見を聞いたのか疑問。知らないうちに球場ができるようになった。野球人口が減りつつある中、数年に一度の一軍戦を誘致する必要は?それより他に力を入れるスポーツはないのか。(30 歳代・女性)
 - ・子どものスポーツ活動について、小規模校で部活動数が少ない場合、クラブチーム等に所属することもあるが、送迎が家族頼みになるため、やりたいスポーツができずにあきらめている子どもがいる。(40 歳代・女性)
 - ・大きな既存団体に加入して、文化・スポーツ活動を行うことは充実しているが、新規団体を育て、多種多様な団体が皆で手を取り合って協力するといったことは、まだまだのような気がする。もっと、市は新しい団体を育ててほしい。(30 歳代・女性)
 - ・教育現場で生涯できる運動の推進。例えばウォーキング。全小中学校での全校ウォーキング→弘前生涯ウォーキングの推進(弘前らしさ)。(60 歳代・男性)
 - ・ドッジボール、サッカー、マラソンなどよくやっているが、まだまだ不十分である。(70 歳以上・男性)
- その他 7 件
- ・取組がどのように行われているか、具体的な情報がない。(30 歳代・男性)
 - ・どんなことをやっているのか宣伝が足りないと思う。良くなっているのかどうかわからない。(30 歳代・男性)
 - ・全体的に情報提供が不足(特に子どもの学び)。事業を行った後の情報も公開してほしい。(40 歳代・女性)
 - ・お知らせの方法が不十分だと思う。(60 歳代・女性)

- ・優秀な人材の流出阻止。せっかく行っている様々な事業が、一般の人々に浸透していない。PR 不足。(40 歳代・女性)
- ・イベントや事業をたくさんやっているのはわかるし、弘前を盛り上げようとしていることは評価できる。しかし、実際にどのようなことをやっているかあまり伝わってこない印象がある。また、そのような事業に学生が参加しにくいと感じる。学生がそのようなアンテナを張っていないということもあると思う。たとえ、参加しようと思っても同年代の人がいないんじゃないかとか考えてしまい、参加することを躊躇ってしまう。Twitter などの SNS も活用しているが不十分だと思う。たまたま返信などをすれば、盛り上がる可能性もあると思う。(10 歳代・男性)
- ・こどもや先生方を指導する立場にある職員が非違行為により懲戒免職になった事案は大変残念なことです。一過性の出来事と捉えるのではなく、市民からの信用回復の為、市教委は職員に対して一層の綱紀粛正を求めるものであります。(60 歳代・男性)

【この分野で今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデアなど】

●婚活支援 7 件

- ・出愛創出は地道な取組だと思えます。しっかり取り組んでほしいです。(50 歳代・女性)
- ・「出愛」という造語が重いと思えました。さわやかさがほしいです。会員になりたいと思えません。弘前で結婚・出産することによる明確なメリットがあればよいと思えます。(30 歳代・女性)
- ・弘前めぐりあいサポーター出愛創出事業について、とにかく出会いのない人を出すためにマスコミをつかって芸能人来てもらおうとか。(70 歳以上・女性)
- ・果たして本当に出会いはないのか。結婚できないのは出会いがないからなのか。根拠となるものがあれば教えて頂きたい。(30 歳代・男性)
- ・女性が仕事力、生活力をつけると、婚姻率が下がる傾向になるのではないのでしょうか。ですから男性には、生活力は勿論のこと、魅力的で、信頼される人間性豊かな人格が求められると思います。(50 歳代・女性)
- ・女性の立場から言わせてもらうと、安心して生活が出来る方を結婚相手に望むのは当然だ。農業人口が多い弘前において農家の安定収入のサポートが結婚につながるのでは。(40 歳代・女性)
- ・結婚制度の充実。例えば、金婚・銀婚の親を祝う子どもたちのイベント計画のバックアップ。(40 歳代・女性)

●子育て支援 12 件

- ・子供に対する補助を増やせば産みたくなくなるのでは。(40 歳代・女性)
- ・国保・社保等にかかわらず、個別の世帯に応じた出産・育児を支援してもらえるような、弘前市独自の政策があると平川市や周辺地域に人口が流出せずに済むのではないのでしょうか。(30 歳代・女性)
- ・私は主人の死亡により母子家庭となりましたが、子供の医療費給付は大変ありがたいと思っています。親の医療費の申請がもう少し楽になればと感じます。(40 歳代・女性)
- ・子ども医療費を小学校卒業まで無料化する(所得制限あり)。(70 歳以上・性別無回答)
- ・未婚の女性が結婚して子供を産み育てる環境づくり。
 1. 子供一人年間の費用 50 万から 100 万円を 3~5 年間支給(金銭にこだわってではないが)。
 2. 職を有する女性には、1 カ月の手当。子育て期間まで 80~100%までの給与補償をする制度を確立(各企業・各会社へ要望して実現させる)。(70 歳以上・男性)

- 子育て中の親への支援として、ヒロコの活用や一時預り等がさらに活用されたら良いと思います。(50歳代・女性)
- 子育てには衣食住のお金がかかるので、子育て世代のフリーマーケットなどを企画して衣類などの調達が安く済むようなしくみがあると嬉しいです。(30歳代・女性)
- 子どもたちの遊び場をつくってほしい。(40歳代・女性)
- 出生記録等から親にそのような事業を行っている事がわかるように資料をどんどんだす。(20歳代・男性)
- 仕事と子育ての両立のためには、職場の理解も必要だが、育休や病時の休暇の取得等が難しいのが現状。こうした状況を変える支援等があると変わってくるのか。(30歳代・女性)
- 私の住む地域では、子育て支援員の方がうまく活躍できていないようです。徐々に世代交代を進め、保健師、地域の幼稚園や保育園と連携し、地域に根ざした活動ができるとよいと思います。(40歳代・女性)
- 乳幼児・小学校低学年の子育てをしている共働き夫婦が（近くに身内もない）、子育て支援センター等、どれくらい役立てられているのか。病中・病後の子どもを預かってもらえる認可施設はどのくらいあるのか。利用の際の料金は安くないのでは、と気になるところです。(70歳以上・女性)

●子どもの学び 20件

～10歳代～

- 子どもの学びやすい教育環境ができることを期待します。(女性)
- 豊かな心を育むのに、学校で友達と一緒に学ぶのもいいですが、歳の離れた方々と話をしたら、さらに知らないことなどを学ぶことができると思います。(男性)
- 子どもの学びの中では、不登校の生徒へのサポート体制が必要だと思う。弘前市は他の町に比べると、不登校に対するサポート（特に民間によるもの）がよくていていると感じるが、民間と行政との隔たりを感じる。不登校の生徒側から動かなければサポートを受けられないので、弘前市のようにサポート体制が比較的整っている所なら、行政は民間と不登校の生徒との橋渡し役をやるべきではないかと思う。(男性)
- 多様な学びの中でも、学生を対象とした事業や、学生と他年代の人がともに参加する事業があるといいと思う。またその事業をターゲットとしている人たちに宣伝することが大事だと思う。(男性)

～20歳代～

- 福祉体験や福祉分野の講話を小・中・高と継続して行う。障害のある子をいじめたり、困っている人を助けず笑っている人がまだまだ多いので理解を深める必要があると感じた。(女性)
- 特にフランス×弘前を押し出している割にフランス語教育や文化にふれる機会が少ないので、もっと積極的にやる必要があるのでは。(女性)

～30歳代～

- 「人づくり」をもっと地域の産業に活かしてアイデアや意見を取り入れ、様々な場所で臆することなく若者達がキラキラと地域の産業を語る教育環境が必要です。ハードルが高い問題ですが、小さな機会があることで未来に繋がることと信じています。(女性)
- 他県から来た身としては、中学高校大学の少なさ、選択肢のなさに大きな不安を感じます。もっと選択肢があればよいのですが。(女性)

～40歳代～

- 子供の活動には、親の理解や協力が不可欠。学校での活動、事業に対しては、もう少し内容を保護者にわかりやすく説明したらよいのでは。弘前市の子供達に対する応援する姿勢をもっと市民にアピール

ールできたらと思います。(女性)

- これからだと思います。特に、ICT活用教育推進事業は地元の小・中学校がモデル校であるため、どのように進んでいくのか、子供たちの反応はどうか、興味があり気になるところです。(男性)
- せっかく桜の名所に住んでいるのだから、子供達にさくらまつり期間は、ただの観光客になってほしくないと思います。何か子供達がさくらに関わる事で、弘前に対する責任感、期待感のようなものが生まれるのでは。桜守の体験、桜の世話など。津軽塗など受け継がれてきたものにもっと触れ合う事でもよいと思います。(女性)

～50 歳代～

- ICT を使えることは必要ですが、使うのは人ですから教育、保育においても人と人のつながり、関わり、好きになったり嫌いになったりを体験させ教育することが少し足りないかなと感じます。(女性)
- 小学校少人数学級拡充事業に期待します。(女性)
- 「ひろさきめぐりあいサポーター出愛創出事業」、「若者魅力アップセミナー事業」、「ひろさき男子お弘芽会事業」やスポーツなど能力に秀でた人を世に送り出す取組は必要ですが、男女ともに幼少期からの「豊かな心を育てる」取組が必要だと思います。(女性)

～60 歳代～

- 小学校の英語教育推進。(女性)
- 道徳教育の充実。(男性)
- スマホやパソコンなどの書や非行を学ぶ機会。(男性)
- ICT教育については、コンピュータがこれだけ普及した今の時代になると新しい取組とはいえないかもかもしれませんが、指導する担当者の授業の組み立て方が重要であると思いますので、公開授業や教員研修会を開き、より質の高い指導法に結びつけてもらいたいと思います。(男性)
- インクルーシブ教育の推進にあっては文科省の提言にも示されていることから今後指導者がそのことを理解し、指導の実践につとめてもらいたいと思います。はじめから障がいであることへの対応は覚悟ができると思いますが、HD（多動性障がい）やADHD（注意欠陥多動性障がい）などの要素をもった子どもも実際はたくさん普通学級に存在するそうですので、今後弘前市としてこの教育の先導的役割を担ってもらいたいと思います。(男性)

～70 歳以上～

- 英語教育の必要性を否定はしないが、それ以上に母国の文化や歴史などの素養を持つ人間を育てることが、真の国際人には求められる。(男性)

●生涯学習 9 件

- もっと地域と子どもの関わりがあってもよいと思います。弘前は自然に囲まれているので、地域の方と子供たちが一緒になって自然とふれあえるようなものがあると楽しめるし、弘前の良さにも気づけるのではないかと思います。(10 歳代・女性)
- 家族ぐるみで出会い付きあっていける交流の場があったらいいのでは。(50 歳代・女性)
- この世で子供、大人、老人と色々な年代で作られ、人は年を重ねてこそ、色々な事を感じ身につくものだと思います。やはりいろいろな年代の人が交流できる場があって欲しいと思います。(50 歳代・女性)
- 弘前市の歴史を市民が常識的に分かるような取組を期待します。(30 歳代・男性)

- ・子供たちが町内会単位で大人たちと触れ合う機会が増えるような行事や集まりに対する補助の支給。(40歳代・男性)
- ・子どもではなく、大人が新たなことにチャレンジする機会を増やしてほしいです。例えば、市民ミュージカルとか、市民演奏会など、初心者がオーデションで舞台経験するチャンスを増やしてほしい。(30歳代・女性)
- ・「自律的な学び」はアクティブラーニングや協調学習などとともに、今注目されている自主的問題解決型学習ですので、タブレットによる調べ学習等この事業の展開を注目したいと思っています。(60歳代・男性)
- ・弘前市には大学が多いことから、各町会に現職大学教官、元大学教官ほかの学識経験者が住んでいます。特に退官された方々の専門性を子供から高齢者までの生涯教育の場に指導者として依頼できたら素晴らしいと感じています。(70歳以上・女性)
- ・地域活動の問題点・課題が整理されているにもかかわらず、議論もされず、解決策を見いだそうとする意欲すら感じられない(中央公民館)。(70歳以上・男性)

●文化・スポーツ振興 10件

- ・文化・スポーツの活動の振興等の要望。(70歳以上・男性)
- ・文化・スポーツ活動の振興に期待する。特にプロ野球一軍戦誘致事業が成功することを願う。(70歳以上・男性)
- ・近隣住民に迷惑にならない範囲でバスケットコート等スポーツができる屋外の場所を増やしてほしい。(10歳代・男性)
- ・スポーツ振興を通して、子どもの学ぶ機会やそのような体験に触れる機会を増やしてほしい。(10歳代・男性)
- ・今の子どもにはもっとスポーツをやらせるべき。部活動は昔のようにスポ少などではなく学校の先生がやるべきだと思う。(30歳代・男性)
- ・既存のスポーツ施設の活用にも力を入れてほしい(武道館など)。(30歳代・女性)
- ・東京オリンピックの事前合宿等に市内の施設を利用してもらいたい。(40歳代・女性)
- ・旧出張所地域から市街地へ、放課後の児童・生徒が限定で乗れるバスを運行。クラブチーム送迎への市からの補助。(40歳代・女性)
- ・弘前にもサッカークラブがあるのだから応援とかはしないのか(八戸のチームのように)。(30歳代・女性)
- ・プロ野球一軍戦誘致の財政負担とその持続的効果には疑問がある。年間に果たして何試合誘致できるのでしょうか。(70歳以上・男性)

●その他 11件

- ・未就学児、小学生を中心にするのではなく0~18歳の子ども全てを支援する必要がある。一部の年齢を重点的にサポートするのでは、本当のサポートとは言えないと思う。(20歳代・女性)
- ・子供に関してはどんどん力を入れて欲しい。家に子供が居ないと損をすると感じる位やってもいいと思う。また、子供の面倒を高齢者が見る、高齢者の面倒を子供が見ることが、子供の教育的にも良いと思う。このようになる仕組みづくりがあれば良いと思う。(30歳代・男性)
- ・多岐にわたり、多種多様な取組が選定されていると思う。これらが効果を発揮して、人間性豊かで、魅力的、信頼され、尊敬される「ひとづくり」として実を結ぶことを期待します。(50歳代・女性)

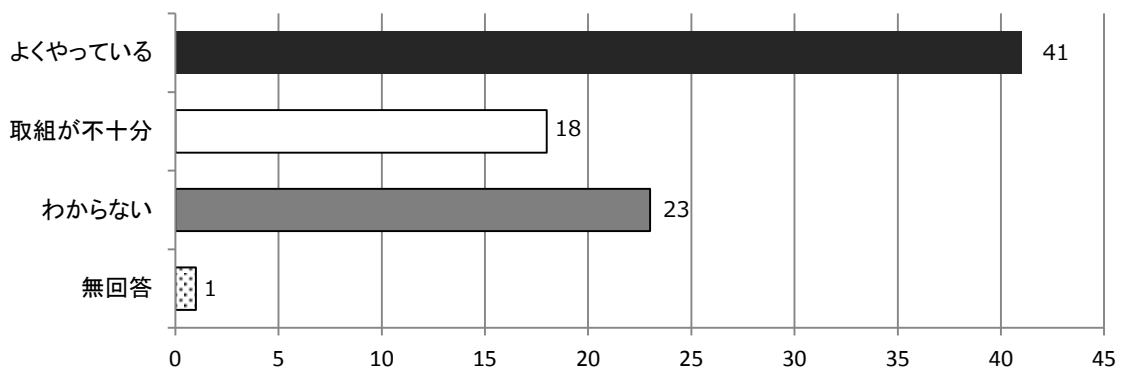
- 子どもたちの笑顔あふれるまち弘前を目指して、とあるが、子ども主体、子ども主人公・青少年の健全育成が経営計画からは見えてこない。なぜなのか不思議です。(70歳以上・男性)
- 地域に市職員（正・臨時等）が多くいるが、住民に対する挨拶が非常に乏しいので、まずは身内から教育の徹底をしてほしい。(70歳以上・男性)
- 様々な事業を計画しているが、担当する職員の育成はどのようにするのか。少子化が進み人材確保が難しいのでは。(50歳代・男性)
- 情報が乏しいので期待したいこともわからない。(30歳代・男性)
- 各地域で持っている施設をどんどん活用するために、広報等で施設の空いている予定などをお知らせする。(40歳代・男性)
- 自分から手続きに行く人は良いが、知らない為苦労している人がいるので、いろいろな制度や支援を受けられることがあることを知らせるとよいと思う。(60歳代・女性)
- むずかしい問題ですね。こんなにたくさんの事業を進めているんですね。未来につながることを願います。(30歳代・女性)
- 文章にICT活用やインクルーシブ教育、スキルアップといったカタカナ等が多く、素直に響いてこない気がします。(50歳代・男性)

4. 分野別政策 くらしづくり

市民一人ひとりが、健康的で生き生きと暮らすことが出来るよう、保健、医療、福祉の充実を図る、また、災害に強く、犯罪のない、安全で、安心して暮らせる地域づくりを進める。

「くらしづくり」の分野における市の取組についてどのように感じていますか

「くらしづくり」の分野においては、「よくやっている」と答えた人は41人(49.4%)となっており、回答者の半数近くが取組を評価しているという結果となった。「取組が不十分」と答えた人は18人(21.7%)、「わからない」と答えた人は23人(27.7%)となっている。



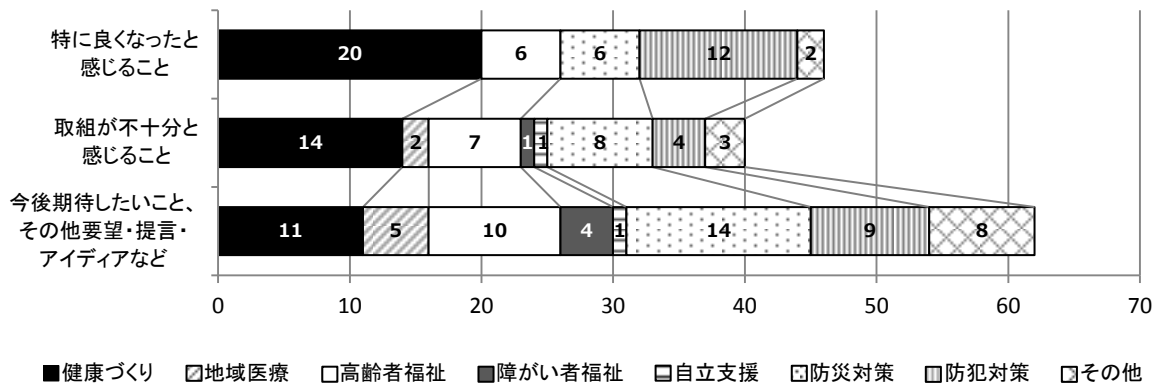
「くらしづくり」の分野における自由意見

「くらしづくり」の分野について「特によくなったと感じること」「取組が不十分と感じること」「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイディア」について意見を聞いた。

「特に良くなったと感じること」については46件の意見があり、分類すると、健康に関する事業が増えているなど健康づくりに関する意見が最も多く20件、次いでLED防犯灯の設置など防犯対策に関する意見が12件となっている。

「取組が不十分と感じること」については40件の意見があり、分類すると、健幸ひろさきマイレージ制度の周知、がん検診の受診率向上など健康づくりに関する意見が14件と最も多く、次いで防災対策に関する意見が8件、高齢者福祉に関する意見が7件となっている。

「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイディアなど」については62件の意見があり、分類すると、災害時の対策など防災対策に関する意見が14件、次いで健康づくりに関する意見が11件、高齢者福祉に関する意見が10件となっている。



【この分野で特に良くなったと感じること】

●健康づくり 20件

- 健康に関することが積極的になっている。(60歳代・男性)
- 健康に関しての事業はどんどん充実してきているように感じる。検診や健康チェック・講演会等を開催しているのが理由である。(20歳代・女性)
- 市民に対して平均寿命が短いということを意識づけることは良いと思う。(10歳代・男性)
- 健康増進のために、たくさんの事業が考えられていて、その意気込みが十分伝わったと思う。(40歳代・女性)
- 子育て支援や健康についてボランティアで関わっています。色々な事を考えられ、色々な人が関わって頑張っていると感じます。(50歳代・女性)
- 健康で長生きするためのイベントに参加している方やウォーキングするなどロコモに関する関心が高まっていると感じられます。(50歳代・女性)
- ひろさき健康増進プロジェクトは岩木地区の人達は多数参加していると思います。(70歳以上・女性)
- ヒロロで手軽に体脂肪率や血圧が測れ、様々な年齢の人々が利用しているのを目にする。これらのちょっとしたスペースで自己の健康と向き合えるきっかけになったと感じた。(20歳代・女性)
- ヒロロで行われる様々な催しは、交通の便がよく、参加しやすい。(40歳代・女性)
- 健康維持のための健康教室のような取組も参加し、取組自体は意義があるものと感じています。(60歳代・男性)
- 健康増進のためのプログラムもある程度評価されるべきと思っています。(60歳代・男性)

～健幸ひろさきマイレージ制度～

- 健幸ひろさきマイレージ制度推進事業はとても良いと思う。健康に関する事業に参加することは、自身のためにもなるし、誰でも地場産品をもらえるとうれしいと思う。(10歳代・女性)
- 町会でも、健幸ひろさきマイレージ制度推進事業を行うようになった。(50歳代・男性)
- 健幸ひろさきマイレージ制度は昨年より大分認知されてきたと思う。記入方法も簡単になった。(60歳代・女性)
- 健幸ひろさきマイレージ制度は、検診を受診したり、健康に関する事業に参加してポイントを獲得し景品をもらえることで、目標ができ、また家族や友達と健康講座などに参加しようと思う。(50歳代・女性)

- ・健幸ひろさきマイレージ制度は面白い企画だと思う。市民が健康に関心を持つきっかけになっていると思います。(50歳代・女性)
- ・健幸ひろさきマイレージ制度、岩木プロジェクト等による健康に対する意識づけが浸透しつつある。(50歳代・女性)
- ・がん検診、マイレージ制度の活用など市民への健康への関心を高めています。(70歳以上・男性)
- ・健康について周囲の人たちと話をすることが多くなった。マイレージ事業のポイントははすごく興味があり、健診に行ってみようと思う。(70歳以上・女性)
- ・健康面では、健幸ひろさきマイレージ制度推進事業、ヒロロでのひろさき健康増進プロジェクト推進事業は、市民だれもが楽しみながら取組に参加できるように広報ひろさきと連動して活動が展開されているため、いろいろな方が誘い合って参加しているようで、たまたまヒロロに出かけたときに目にし良い取組と感じています。(70歳以上・女性)

●高齢者福祉 6件

- ・ほのぼのコミュニティ21推進事業は、ほのぼの協力員がひとり暮らし高齢者等の訪問で、体調等の確認ができると思う。(70歳以上・性別無回答)
- ・高齢者福祉の充実で、自立支援介護があるのは、とても良いと思いました。ただ施設を増やすだけでなく、自立して少しでもやれることを増やせることは、高齢者の希望にもつながっていると思います。(10歳代・女性)

～まちなか花いっぱい事業～

- ・花いっぱい運動など、取り組む地域が広がってきていると思います。(30歳代・女性)
- ・まちなか花いっぱい事業。弘前駅から公園までの街灯に花があるだけで町全体が明るく見え、とても印象良く感じた。(10歳代・女性)
- ・まちなか花いっぱい事業を実際に行っている場面に土手町で出会ったことがあり、花かごの取り付けに高齢者の方々が、協力し合いながら生き生きと活動していて心和む光景でした。以後花かごを見るたびにその場面が思い出されてステキな活動なので、ずっと続き、盛岡の「花いっぱい運動」のようになればいいと思っています。(70歳以上・女性)
- ・老人会の活動に参加して、まちなか花いっぱい事業の水やりを行っています。(60歳代・男性)

●防災対策 6件

- ・災害の時の避難場所が家の周りに沢山あるのは、安全で安心な生活ができる一つの要因だと思います。(10歳代・男性)
- ・防災についての環境づくりへの取組が活発に行われている。(30歳代・女性)
- ・学校での防災訓練が素晴らしい。子ども達にも災害に対する危機感が根付いている。(30歳代・女性)
- ・防災については以前より良くなっていると思う。以前、休日発生した水害の際、人はいるのに資材が無く、その手配だけで対応が遅くなったことがあった。(40歳代・男性)
- ・自主防災組織も地区で取組もうと言う意見も聞かれるようになりました。(50歳代・女性)
- ・防災への関心が強くなってきていると思う。(60歳代・女性)

●防犯対策 12件

- ・ひとり暮らし女性のための設備が整ってあるアパートがあり、安心して暮らすことができていると思う。(10歳代・女性)

- ・小学校の前での保護者による見守り。どの地区でも横断歩道の前で子供たちの安全管理をしていたり、通学路に立って挨拶をしている姿が見られるようになり、子供にとっても、ドライバーにとっても安全・安心な環境になっていると感じる。(20 歳代・女性)
- ・私の住んでいるところは地域の方々がいろいろと協力してくれるので、朝の登校等も見守っている方々が多い。(40 歳代・女性)

～LED 防犯灯設置事業～

- ・LED 防犯灯の設置。(60 歳代・男性)
- ・LED 防犯灯設置は良かった。(60 歳代・男性)
- ・LED 防犯灯・街灯の設置。(70 歳以上・男性)
- ・町が明るくなり、以前よりも安心して外を歩けるようになった。(10 歳代・女性)
- ・明かり 1 つあるだけで安心だし犯罪意識も防げると思う。子供が学生で部活で帰宅時間も遅く、暗い道を歩かないよう話はしてるが、明りがあるとより安全に思う。(40 歳代・女性)
- ・道路・町内が明るくなった。(50 歳代・男性)
- ・防犯灯がついていないところなくなり、安心感が増したと思います。(50 歳代・男性)
- ・夜間の照明によって生活環境は良くなったと感じる。(70 歳以上・男性)
- ・LED 防犯灯の設置事業を評価したい。単位町会の負担が軽くなった。(70 歳以上・男性)

●その他 2 件

- ・市で推進している各種事業ひとつひとつが市民のくらしと安全に寄与していると思います。(60 歳代・男性)
- ・高齢者への配慮が多く、福祉と安全・安心については良いと思う。(10 歳代・女性)

【この分野で取組が不十分と感じること】

●健康づくり 14 件

- ・健康づくりサポーター制度などあるようですが、よく分からないのが現状です。何で知ることができるのか教えてください。(30 歳代・女性)
- ・弘前に来て一番感じたことは、スーパーの惣菜や飲食店など、どの料理も塩分が多く塩辛いという事でした。また、喫煙者も目立ち、青森が短命県というのも納得してしまいましたので、先ずはそのような生活習慣の改善が第一だと思います。(40 歳代・男性)
- ・若年者の生活習慣病等の健康意識の向上。講演会や健康グッズの景品等では、既に健康に関心がある人でなければ目を向けないと思います。(30 歳代・女性)

～健幸ひろさきマイレージ制度～

- ・せっかく良い活動をしていても実際情報が行き届いていないと思う。実際私も健幸ひろさきマイレージ制度推進事業のような活動があるのは知らなかった。(10 歳代・女性)
- ・健幸ひろさきマイレージ制度は、市民を対象とした制度にもかかわらず、知らない人が多いと思う。周知方法を検討してほしい。(30 歳代・男性)
- ・健幸ひろさきマイレージ制度を知らない市民も多い気がします。(50 歳代・女性)
- ・健幸ひろさきマイレージ制度の事は初めて知った。(70 歳以上・女性)

- せっかくやっているマイレージ制度がちょっと難しく理解ができていない。(40 歳代・女性)

～検診・がん検診～

- がんの死亡率 1 位は本当に身近に起きて実感がわいているので、その予防対策をしっかりとやって欲しい。診断に来るよう言っても来ない人は来ないので、企業の健康診断でもっと深く調べればよいと思う。(10 歳代・女性)
- 市の検診のハガキ等は届くが、そのまま受診していない。または見ていないということがある。(30 歳代・女性)
- がん検診の受診率が低すぎる。(30 歳代・男性)
- 健康診断を受けられるのに、行かない人が多いと思う。啓発も重要だが、おせっかいなくらい誘うサポーターも必要かと思う。(40 歳代・男性)
- 基本健康診査時代に実施していた市内の巡回健診のやり方が受診率をあげるには良かったのか。岩木プロジェクト以上のデータベースがあったかもしれません。(50 歳代・女性)
- がん検診受診率向上…40 才代の働きざかり(仕事が休めない)世代の受診率の向上が問題と思う(大会社は強制的に受診させているが)。(60 歳代・女性)

●地域医療 2 件

- 専門医不足。(40 歳代・女性)
- 市立病院の有効活用をもっと考えてほしかった。(40 歳代・女性)

●高齢者福祉 7 件

- 高齢者が困ったときに気軽に相談にいける場所を地域に増やしてほしい。ヒロロとかだけだと、なんとなく行きにくいような。(10 歳代・女性)
- 高齢者の社会進出を考える。人材の再利用。(40 歳代・女性)
- 加速度的に増加するであろう高齢者、一人暮らし老人に対する対策が今のままでは追いつかないのではないかと不安です。(50 歳代・女性)
- 介護予防や、要介護度を上げない対策は、全ての高齢者に対して行われなければ効果がないと思いますが、現在行われている具体的な事業が、参加できないあるいは参加する意欲を持っていない高齢者に対しては有効でない点が問題です。利用者の要介護度を下げるという成果を実際に示している大規模デイサービスの「夢のみずうみ村」のコンセプト「心が動けば体が動く」のように、できるだけ多くの高齢者に意欲や、やりがい、生きがいを持ってもらえる事業を実施していけないものでしょうか。(60 歳代・男性)
- 認知症者と家族に対する取組が不十分。現在のところは各家庭まかせではないか。(70 歳以上・男性)
- 「まちなか花いっぱい事業の水やり」についても、老人会の話し合いの中では、このように水やりという具体的な事業をお仕着せのように決めて、やらせることで、高齢者の活動と言えるのか疑問だという声が上がっています。自分の住む地域に花を活けて、水やりをするならともかく、めったに行かない離れた場所に水やりに行って、地域への貢献や介護予防になるのでしょうか。(60 歳代・男性)
- まちなか花いっぱい事業について、岩木地区でも昔から花いっぱい運動をしていましたが、今は補助が少なくなったように聞いています。(70 歳以上・女性)

●障がい者福祉 1 件

- 障がい者福祉の充実。(70 歳以上・男性)

●自立支援 1件

- ・生活保護支援事業について、各種適正化の取組の推進が厳格になされているのか疑問である。進捗状況を示してほしい。(70歳以上・男性)

●防災対策 8件

- ・子どもに対して防災意識を育てる必要があるのではないか。なぜなら、災害時は必ず周りに大人がいるとは限らない。ゆえに、子ども一人でも自己判断、行動できるような教育が必要ではないのか。(20歳代・女性)
- ・他県では、学校に防災ずきんを各自用意している(各自の椅子に掛けて)ようだが、この地域では防災ずきんなる物は必要ではないのか(わからないので聞いてみました)。(30歳代・女性)
- ・防災関連。(30歳代・女性)
- ・最近各地で噴火が相次いでいるので、岩木山はどうか情報が欲しいです。(40歳代・女性)
- ・災害の起こる地域がいつも同じ。その地域を最優先に事業がおこなわれるべき。(40歳代・女性)
- ・市内の排水が不十分。少し雨が降ると排水できず大変危険な箇所が沢山ある。排水先の護岸整備も必要。(40歳代・女性)
- ・自主防災組織は、未結成が多い。(60歳代・男性)
- ・避難時要支援者の把握など。(60歳代・男性)

●防犯対策 4件

- ・夜間暗いところがまだ多いこと。(10歳代・男性)
- ・城下町という昔の地形のためか、夜に暗いところが多いように感じる。(20歳代・男性)
- ・通学路で防犯灯が少ない箇所があり、夜間の安全に不安を感じます。河川敷の樋ノ口～悪戸線もその1つです。(40歳代・男性)
- ・子どもの安全・安心を守るための具体的計画・活動が欠落している。(70歳以上・男性)

●その他 3件

- ・情報が乏しい。(30歳代・男性)
- ・あまりに企画、事業がありすぎて、まとまりがなくなったように思う。(40歳代・女性)
- ・やる気のある人が頑張ってもやる気のない人の心に入るとはとても難しいことだと思います。草の根運動とはよく言ったもので、それがいつ実を結ぶのかは誰にもわからないことだが。(50歳代・女性)

【この分野で今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデアなど】

●健康づくり 11件

- ・市民が毎日健康で暮らすことができるようにと、市として広報をはじめ様々な情報手段で市民に呼びかけており、その熱意が伝わってくる。(60歳代・男性)
- ・小学生の頃から肥満防止の食育教育を期待。家庭では無理です。(60歳代・女性)
- ・生活習慣改善セミナーの開催、禁煙に対する市独自の補助、スーパー等の減塩弁当や総菜に対する健康認定マークの認定。(40歳代・男性)

- ・以前、毎日りんごを1個食べる取組がありました。現在、りんごが健康に良いという話を聞かなくなりましたが、根拠がないということでしょうか。その後の役立つ研究結果があるのであれば、発信してはどうでしょうか。(50歳代・女性)
- ・各地域、各町会毎の健康番付などを発表し、アピール。(70歳以上・男性)
- ・医療費の少ない地域・町会の調査発表と市民への感心と醸成を図る。(70歳以上・男性)

～健康づくりサポーター制度～

- ・健康づくりサポーター制度は、きめこまかく、市民が実感できるようにしてほしい。制度があるだけで終わらないように。(70歳以上・女性)
- ・健康づくりサポーター制度について、各町会から推薦するという方法は検討してほしいと思います。町会役員すら簡単に選出できない状況にあることを理解してほしいと思います。それに行政側から「ボランティア」という規定は、おかしいと思います。ボランティアは活動する人間の自発的意思に基づくものであるからです。(70歳以上・男性)

～検診・がん検診～

- ・ガン検診受診率向上強化対策事業、巡回検診車について、地域によって違いがあるのかもしれませんが、私の住む地域では、いつも農作業の忙しい時期と重なり、行きたくても行けないという意見も多いと聞きました。(30歳代・女性)
- ・短命県でもあり、がん患者も多い。もっとがんの検診についてPRすべき。早期発見が本当に大事だと痛感しているので、多くの人に検診してもらえるようにしてほしい。(40歳代・女性)
- ・働き盛りの方や生活困窮の方の中には、がん検診など検診を何年もほとんど受けていない働きずくめの方が居ることを耳にすることがありました。そういう方には、関係者の方からの声掛けや繰り返しの案内など笑顔プロジェクトに相應しい市民みんなに行き渡る特別温かい配慮があればと思っています。(70歳以上・女性)

●地域医療 5件

- ・病院のアドバイザー的機関。(40歳代・女性)
- ・健診・受診の簡略化。(40歳代・女性)
- ・市立病院を健診など予防医療の中核施設にする。(40歳代・女性)
- ・救急医療の充実。(40歳代・女性)
- ・市内には大きな病院が何か所かありますが、やっていない科があったりして不便を感じる場合があります。患者さんのためにも何とか充実した病院にすることはできないのでしょうか。市立病院自体赤字なのではないのでしょうか。職員の皆さんは経営についても考え、黒字にするための提案をするということはあるのでしょうか。市立病院独自で経営が成り立たないのなら一考の必要があると思います。(50歳代・女性)

●高齢者福祉 10件

- ・高齢者事業について、高齢者が自立し、地域貢献することは、重要であるが、さらに同年代同志、学生などの若年層などとも交流を図ることが必要だと考える。それは高齢者にとってのコミュニケーションの充実や社会に必要な存在であるという満足感を深めることができるのではないか。(20歳代・女性)
- ・高齢者と子供が一緒に住んでいる家を優遇する等。独居高齢者を作らないのが良いと思う。高齢者世帯に税金を使うのが一番無駄。(30歳代・男性)
- ・老人に地域コミュニティの中で居場所を作ってあげる。(50歳代・女性)

- ・弘前は福祉が充実していると言われていたが、ますます高齢者が増える中においては、施設の充実と生活支援にもっと力を入れる必要があると思う。(40 歳代・女性)
- ・福祉に携わる人員の確保とレベルアップ(資格取得・接遇)を期待したいです。(30 歳代・女性)
- ・これから自分も歳を重ねるので、庶民も安心して暮らせるようにしてほしいです。(40 歳代・女性)
- ・高齢者が自分にしかできない社会への役割を見出せるようなことを考え、自ら役割を果たし、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を確保し、結果的に健康寿命を伸ばして社会の負担を最小限にすることを、高齢者自身も望んでいると思います。それができる政策を実施して頂きたい。(60 歳代・男性)
- ・高齢者が要介護状態を経験せずに、ピンピン生活して、ぽっくり行く(健康寿命を伸ばす)ための積極的な事業を展開すべきではないか。(60 歳代・男性)
- ・高齢者福祉の充実には反対。どこからその財源をもってくるのか。希望的観測で物事を進めて欲しくない。出来ないことに力を入れないで欲しい。高齢者の問題は各家庭で解決すべき。子供は地域で育てるべき。(30 歳代・男性)
- ・高齢者福祉に関しては、無条件に内容を拡充するようなことはやめて欲しい。破綻します。(30 歳代・男性)

●障がい者福祉 4 件

- ・単に障がい者を就労させるという政策ではなく、障がい者がその個性、適性を生かし、最大の収入を得て、自立し、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高め、税金を使う存在でなく、税金を払える存在になるような政策を実施して頂きたい。(60 歳代・男性)
- ・障がい者の就労支援のような政策においては、就労支援の専門家だけでなく、幅広く知識や、知恵を集めて、政策を策定していただきたい。(60 歳代・男性)
- ・震災における経験から、障がい者の緊急時の課題が浮き彫りになりました。弘前市では、この点について、障がい類型別に必要な緊急対応について震災以後見直されていますか？特に、言語や、認知、視覚、聴覚障がいなど情報に制限のある障がいの方が大変な思いをされたことが分かっています。もし、されていなければ、至急見直して、適切な対応策を実施して頂きたいです。(60 歳代・男性)
- ・弘前の地域リハビリテーションは十分とは言えません。地域リハビリテーションのフォーマルな部分は、実施されていますが、インフォーマルな部分が不十分です。障がい者の地域参加のためには、障がいのある方への機能訓練などで障がい自体を軽減することも大切ですが、障がいを完全に無くすることはできません。障がいを持ちながら地域・社会に参加して頂くためには、地域自体が誰でも暮らせる社会にならなければなりません。そこでは、フォーマルなサービス以外に、一般の市民の協力が不可欠です。現在も市民団体などが個別に取り組んでいる事業などに、これまで以上に行政としての支援をして頂きたいと思います。(60 歳代・男性)

●自立支援 1 件

- ・生活保護の適正な支給への取組は重要なことだと思います。低所得者と生活保護受給者との家計が逆転しているのではないかと疑問に思う場面があります。(50 歳代・女性)

●防災対策 14 件

- ・防災については満足している。(30 歳代・男性)
- ・地震などの災害が起きたときに、(豪雨のときなども)どの地域が危険なのか(川や山が近くにある家)よくわからない。(10 歳代・女性)
- ・最近では地震が多発し、不安に思っている市民も多いと思うので、市の防災に関する事業をもっと市民に伝えることで、安心できると思う。(10 歳代・女性)

- ・今はお年寄りの一人暮らしや介護の必要な人が多いと思うので、あらかじめ、そのようなお宅をリストアップするなどして、災害のときに大型のバスなどで助けられるような体制にするとよいと思います。(10歳代・男性)
- ・東日本大震災が起きたとき、ちょうど弘前にいたが、交通整理がされておらず帰るまで大変な思いをした。また地震が起きたとすれば、車の渋滞の問題は大きいと思う。車で避難する場合、どのように誘導するかを考える必要があると思う。(10歳代・男性)
- ・観光客の安全・安心について、宿泊所(ホテルなど)での避難でなく、日中の散らばっている状態でも対応が必要。(60歳代・男性)
- ・各町会の集会所を防災場所とするための備品等何を準備しておいたらよいのか、指導があればよいと思う。(50歳代・男性)
- ・災害別に避難場所などを決め、全世帯に徹底する。(50歳代・女性)
- ・災害が少ない土地だと感じるが、それに油断せず「まさか」に備えて防災対策をしてもらいたい。(10歳代・男性)
- ・雨が降っても雪が降っても安心して暮らせる街づくり。(40歳代・女性)
- ・自主防災の取組は大切と思いますが、一町会の自助努力だけでは限界がある。例えば、学区ぐるみでの一斉の訓練の実施など考えられないものか。(70歳以上・男性)
- ・防災訓練など。町会に入っていないなくても参加できるシステムを。(30歳代・女性)
- ・災害対策、救急のための基盤の強化など。(70歳以上・男性)
- ・災害などが発生したとき、市長をはじめ職員が現場に駆けつけてくれることは、被災者にとって心強く大変ありがたいことだと思います。(60歳代・男性)

●防犯対策 9件

- ・防災も重要だが、防犯の方もイベントとしてもっと行ってほしい。実際あった場合どうするのか、子供対象ではなく、もう少し大人対象でやってくれればよいと思う。(10歳代・女性)
- ・不審者・痴漢対策、子どもの安全を守る活動を地域にまかせるだけでなく、総合的なネットワークづくりをする必要がある。(70歳以上・男性)
- ・自分が学生だからというのもあるが、せっかく各地からの学生がいたり、りんごという特色があるのに、定住してもらえることが少なく感じる。そのために歓楽街の環境を整えるべきだと思う。治安が悪いと思う。(20歳代・男性)

～防犯灯・防犯カメラの設置～

- ・街灯を増やしたり、犯罪が起こりそうな区画の整理。(20歳代・男性)
- ・岩木地区では、人通りの少ない路地が多いため、その中でも犯罪が起きやすい場所だけにでも防犯灯を設置してほしい。(20歳代・女性)
- ・LED防犯灯設置事業に期待します。夜道の暗い場所にもっと電灯を増やしてほしい。(50歳代・女性)
- ・どこかの都市で通り一本すべての街頭が青色(防犯色)というのを見たことがある。青色が防犯色という裏付けがあるなら、採用すべきではないかと思う。(40歳代・男性)
- ・防犯カメラを取り付けたとのニュースを耳にしましたが、繁華街でない所にも取り付けてほしい。(50歳代・男性)

- ・観光都市ですので、LED 防犯灯の設置と併せて、要所に防犯カメラを設置していただき、より安心安全な街づくりにしてもらえればと思います。(60 歳代・男性)

●その他 8 件

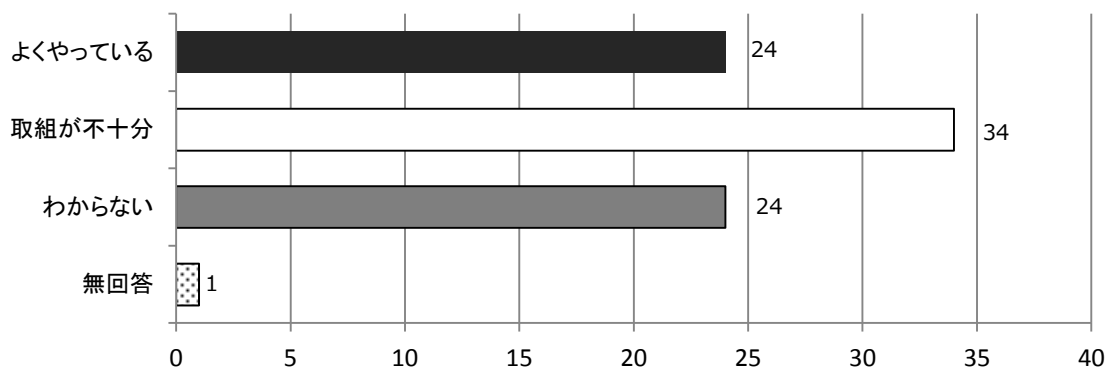
- ・くらしづくりに関しては、あまり人の目に触れないところや、長期スパンで考えなければならないところもあるので、何が良くて何が悪いのかわかりにくい。(10 歳代・男性)
- ・少なくとも私の身の回りには取組が伝わっていない気がする。(30 歳代・男性)
- ・リーフレットや広報ひろさきなどでさらに知る機会を増やしてほしいです。また、町内会に所属していないので、広報ひろさきも気が向いた時にスーパーなどでもらっている程度なので、冊子などで見ることができれば嬉しいです。(30 歳代・女性)
- ・CM などを利用し、幅広く知ってもらおうと、もっと便利になると思います。(30 歳代・女性)
- ・この分野に限ったことではないが、あまり関心がない市民にも取組を知ってもらうためのメディア活用方法は、検討の余地があると思う。(40 歳代・女性)
- ・チラシや講習・講演を多くしてたくさんの方の目にふれる機会を多くしていったら良いと思う。(60 歳代・女性)
- ・街づくり、コミュニティ・町会活動等の近隣地区の協力体制の確立。(50 歳代・女性)
- ・あきらめずどこかにあるであろう糸口を見つけだすべきボランティアを行政が支えてほしいと思う。(50 歳代・女性)

5. 分野別政策 まちづくり

市民生活に大きな影響を与える冬季の雪への対策のほか、美観等を考慮した住環境の整備や多くの役割を果たす公園の整備、道路網や上下水道の整備など、都市基盤の充実を図る。また、循環型社会の形成を目指し、エネルギーや環境に対する取組を行う。

「まちづくり」の分野における市の取組についてどのように感じていますか

「まちづくり」の分野においては、「取組が不十分」と答えた人が34人(41.0%)となり、「よくやっている」と答えた人は24人(28.9%)を上回る結果となった。「わからない」と答えた人は24人(28.9%)となっている。



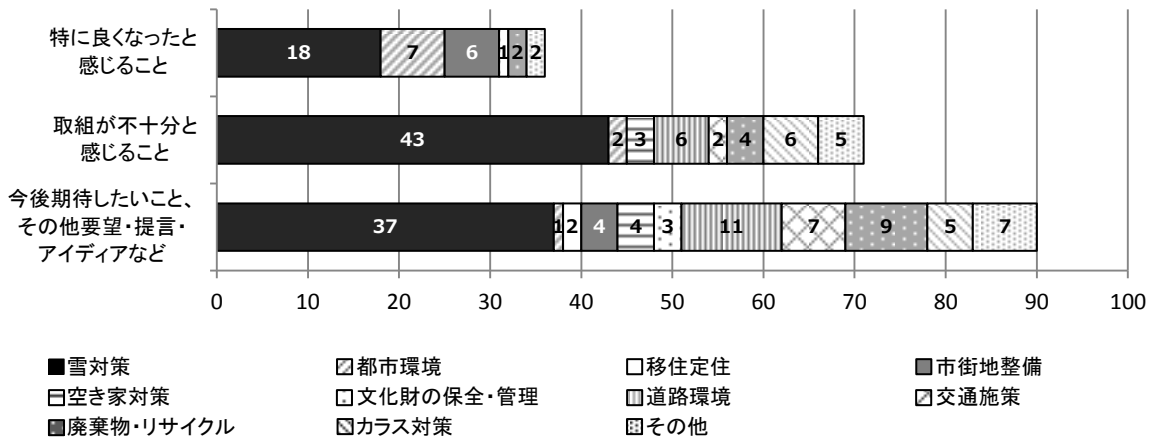
「まちづくり」の分野における自由意見

「まちづくり」の分野について「特によくなったと感じること」「取組が不十分と感じること」「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイディア」について意見を聞いた。

「特によくなったと感じること」については36件の意見があり、分類すると、除雪や融雪実験など雪対策に関する意見が18件、次いで公園の整備など都市環境に関する意見が7件、市街地整備に関する意見が6件となっている。

「取組が不十分と感じること」については71件の意見があり、分類すると、除雪が不十分、歩道が確保されていない、雪を捨てる場所がないなど、雪対策に対する意見が6割を超え43件となっている。次いで、道路環境及びカラス対策に関する意見がそれぞれ6件となっている。

「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイディアなど」については90件の意見があり、分類すると、冬期間の快適な生活を望むなど雪対策に対する意見が最も多く37件、次いで道路の整備や自転車専用道路の整備など道路環境に対する意見が11件、廃棄物・リサイクル対策に対する意見が9件となっている。



【この分野で特に良くなったと感じること】

●雪対策 18件

- よく取り組んでいると思います。ぜひ早く弘前に適したモデルを見つけだし、実践してほしい。(30歳代・男性)
- ここ数年降雪量が特に多かったはずですが、生活に大きな混乱が起きなかったのは、雪対策の充実のお蔭だと思います。大きく評価できると思います。(40歳代・女性)
- 雪対策は年々良くなっており、苦情も少なくなっており十分成果は上がっていると思われます。地熱利用の融雪を我が家でも設置しましたが、とても良いです。(50歳代・女性)
- 雪対策については、関係部署が事業者と連携を密にとり、適切に対応してくれていると思います。(60歳代・男性)
- きめ細かい多様な対策。(60歳代・男性)
- 屋根の雪下ろしの際の命綱の貸出。(40歳代・女性)
- 弘前市の大きな問題である積雪については良いと感じました。その理由は、テレビで高校生が高齢者の自宅の雪掻きをしているのを目にしたからです。(10歳代・男性)

～除排雪～

- 弘前市の冬の除雪が前よりも、車などが通りやすくなり、事故が減ったと思いました。(10歳代・女性)
- 除雪業者は丁寧にするようになってきた。(60歳代・男性)
- 除雪対策はすごくよく実施されております。(70歳以上・男性)
- 雪害を少なくするための意気込みがみられる。他地域と比べても類を見ない程きれいな除雪。(20歳代・女性)
- 冬期間における快適な道路環境の形成。(70歳以上・男性)

～融雪・流雪溝～

- 除雪の取組、融雪実験などは評価されると思います。(60歳代・男性)
- 雪対策について、新たな対策を取り入れ実施している事に一定の評価はできる。実験から全市へ拡大出来るように努力してほしい。(70歳以上・男性)

- ・道路散水融雪設備の導入、歩道の雪片づけ作業は通勤通学時に間にあっていて良い。(50歳代・女性)
- ・消流雪溝の整備されている道路は歩きやすい。(60歳代・女性)

～雪置き場～

- ・町会雪置き場事業や地域除雪活動支援事業は住宅地などでは大変助かる事業だと思います。(60歳代・男性)
- ・町会雪置き場事業における所有者の土地に係る固定資産税の減免。(70歳以上・性別無回答)

●都市環境 7件

- ・都市環境等いいと思う。(40歳代・男性)
- ・公園はこまめに草刈りもされており、きれいだと思う。白い犬がいる公園(吉野町緑地)は、外国人が写真を撮ったり、ピクニックをしていたりしてとてもいい公園だと思う。(10歳代・女性)
- ・公園の整備は、本当に素晴らしいと思います。(10歳代・女性)
- ・弘前公園の整備は、国内外を多く旅行してみて他と比べて誇らしい思い。(70歳以上・女性)
- ・弘前城本丸石垣整備事業。(10歳代・女性)
- ・弘前城本丸石垣整備事業は、市外・県外からの注目をあつめ、2015年のさくらまつりでは、堀から桜、城を見上げるといった形をとり、整備という一見悪影響を与えそうなものを逆手に取った良いアイデアだと感じた。(20歳代・女性)
- ・弘前城本丸石垣整備事業は、子供たちも城の歴史等を知るよい機会になったのでは。(50歳代・男性)

●市街地整備 6件

- ・駅前や土手町などはきれいに整備されているところが多くて良いと感じた。(10歳代・女性)
- ・駅前などの整備が進み、完成すると、住み良い街になりそうで期待しています。(30歳代・女性)
- ・駅前地区の道路拡張に伴う整備事業だが、弘前の玄関ともいえる地域があまりに廃れた姿だったので、必要な整備だったと思う。(40歳代・女性)
- ・市街地の景観は情緒にあられて整備も整っており、利用しやすい。(30歳代・女性)
- ・街並みが弘前から素敵になってきていると感じる。風情があってとてもいい。(30歳代・女性)
- ・中心市街地が歩いて気持ちのいい空間に変わってきたと感じます。課題にもあるように、それが拠点間の連続性だったり回遊性にうまくつながり、みんなにそういうイメージが伝わっていけば面白いと思います(歩の街)。(40歳代・男性)

●文化財の保全・管理 1件

- ・文化財の保存と整備は、古い物と新しい物との合体が見られて良いと思う。(60歳代・女性)

●廃棄物・リサイクル 2件

- ・市民一日一人あたりのごみ排出量が減少傾向にあること。(10歳代・男性)
- ・再生資源回収運動事業は、弘前市のごみ排出量が全国最下位クラスの青森県の中でも最下位クラスという残念な現状を打破するために非常に大切な事業であり、この取組には市民の意識向上と協力が欠かせない。以前に比べると雑紙や春からスタートしているリサイクル衣類回収も主婦たちの間で話題になることも多くなり、再生資源への意識の高まりを感じている。(70歳以上・女性)

●その他 2件

- ・水道の水がおいしいのありがたい。(70歳以上・女性)
- ・エネルギー政策の推進。(70歳以上男性)

【この分野で取組が不十分と感じること】

●雪対策 43件

～除排雪～

- ・家の前なども除排雪が行き届いていないのが不十分だと思っています。(10歳代・女性)
- ・交通量が多い道路でも、雪でとてもでこぼこしていて、道幅もせまく少し危険だと感じます。(10歳代・女性)
- ・雪対策についてですが、狭い道で交通量が多いところに限って、除雪されていなかったり、融雪・流雪溝がなく、通行できなかったときがあります。(10歳代・女性)
- ・とにかく冬の事故が多いため、大きい道路もそうですが、より狭い道路の除雪作業をもっと重点的にすればいいと思う。(10歳代・女性)
- ・道幅の狭い道路の除雪が不十分。車が歩行者に接するほど歩道の雪が多いのは問題だと感じる。(20歳代・女性)
- ・除雪の方法が不十分。(20歳代・男性)
- ・除雪はしても排雪が不十分な為に、道幅が狭く、危ない思いをすることがよくある。(30歳代・女性)
- ・冬の除雪は小道をもっとまめにやるべき。(30歳代・男性)
- ・除雪作業。大きい道路はまめに除排雪しているものの、路地の除排雪については、行き届いているとはいえない。(40歳代・女性)
- ・降雪量が多かったこともありますが、除雪の回数や排雪など、対策を充実してほしい。(50歳代・男性)
- ・一般生活道路の除雪は全く改善されていない。また業者によって除排雪のやり方に違いがある。業者への指導がなされているのか疑問である。(70歳以上・男性)
- ・除排雪については、もっと効率的に。地域によって差がありすぎる。(30歳代・男性)
- ・除雪が地域ごとに狭いところもあれば、広いところもある。(30歳代・男性)
- ・除雪技術の格差が大きいように感じます。(40歳代・女性)
- ・雪対策はまだまだ不十分だと感じる。市民からこの場所(道路)を除雪してほしいという要求が来る前に対策すべきだと思う。(20歳代・女性)
- ・積雪観測地点より少ない地域でも除雪車が来ている。まったく無駄でないか。調査と除雪会社の意識の向上を期待する。(70歳以上・男性)

～歩道の確保～

- ・歩道が雪で埋まっていて歩くところがない。(10歳代・男性)
- ・除雪は予算もかなりかかるし、大変なものよくわかる。しかし、狭い道路がすり鉢状になっていて通行するのがとても危険だ。特に弘大の裏の道は、交通量が多く、学生が徒歩で移動しているので、通るのに一苦労だ。(10歳代・男性)

- ・私は泉野から弘南鉄道に乗るため、冬場千年駅まで歩いている。どうしても毎年この行く道の除排雪が行き届いていなくて、歩くのに非常に困っています。狭くてなかなか進みません。(10歳代・女性)
- ・除雪がまだまだ不十分だと思う。通学路だけでもしっかり人と車が通れるようにしてほしい。(10歳代・女性)
- ・道幅が狭いか交通量が多く、通学路となっている道もあるが、十分に除雪が行われておらず、危険を感じる。道路で散水した後に除雪をすべきだ。雪が完全に融けず、かえって足場が悪くなる。(20歳代・女性)
- ・学校前の道路でも長い間歩道も通る事が出来ない程になっている事が良く見られる。(30歳代・女性)
- ・歩道等(通学路)の雪片付けが大変。自宅の左右隣が空き家・空き地のため。(40歳代・女性)
- ・歩道が、雪の壁の状態になるので圧迫感があり車道が見えない状態は不安感がある。(50歳代・女性)
- ・通学路の除排雪は良い箇所と悪い箇所がある。(60歳代・女性)
- ・歩道のマンホール部の融雪で段差ができ、高齢者の歩行は難しい状況。(60歳代・女性)

～融雪・流雪溝～

- ・融雪設備はせまい道から始めてほしい。(70歳以上・女性)
- ・未使用の消流雪溝が多い。公園の周囲、歩道がある道路に設置してある流雪溝は除排雪の雪がたくさんあり、その雪を片付けて使用している箇所は少ない、経費のムダ。(50歳代・女性)

～雪置き場～

- ・雪かきをしていても、雪を片付ける場所がなく、困ったことがあります。(10歳代・女性)
- ・冬の除雪、雪を捨てる場所のない地区への配慮。(30歳代・男性)
- ・冬期間は、排雪に困っている人が多いと思う。(30歳代・男性)
- ・雪を捨てる場所の確保(特に中心部)。(40歳代・女性)
- ・私の住む地区では、雪を捨てる場所がなく困っている人達がたくさんいます。高齢者や母子家庭などは朝の作業も大変で、正直冬は雪のないところへ移住したいと感じます。実際、雪に悩み、八戸へ移住した母子家庭もありました。(40歳代・女性)
- ・雪の置き場がない。毎年対策を行っていると思うがよくなったという実感がない。(50歳代・男性)
- ・雪の排除方法が大きいと思う。(60歳代・女性)

～間口除雪・除雪困難者の支援～

- ・除雪車が残していく雪がとても固くて片づけが大変。(10歳代・女性)
- ・除雪活動支援自体は良い取組だと思うが、手続きが面倒だったり、社協の除雪支援事業との区別がわかりにくかったりする。(40歳代・女性)
- ・雪対策において、生活弱者(子供・高齢者)に対するフォローが十分ではない。(40歳代・男性)
- ・地域と一体となった除雪体制だが、高齢者が多くなり、どう構築していけばよいのか。(60歳代・男性)
- ・雪対策の成果は十分に出ているとは言えません。道路の確保と、個々人宅の雪片付けにおける高齢者の問題は、深刻で急を争います。(60歳代・男性)

- ・高齢者の住宅付近の除雪については大変困っています。(70歳以上・女性)
- ・冬期間の除排雪、特に消流雪溝のない地域では、毎朝の間口除雪に大変苦労している。高齢者は勿論のこと、働き盛りの世代では共働きが多いので、早朝の重くて硬い大量の間口除雪については、近所同士で顔を合わせる度に苦情を言い合うものの改善がないままの状態が続いている。サイドシャッター装置の除雪機などの効力が郊外地域にも恵まれることを望みます。(70歳以上・女性)

～その他～

- ・雪対策や都市環境など市街地に重点があるように感じる。市街地から遠いので実感がない。(40歳代・男性)

●都市環境 2件

- ・都市空間の形成。(70歳以上・男性)
- ・弘前公園追手門付近のトイレが新築され、大変嬉しいが、公園入口のトイレは顔である。温水洗浄便座が一台でもあれば助かる人がいるのだが。(60歳代・男性)

●空き家対策 3件

- ・空き家対策。今にも崩れ落ちそうな危険な家屋がたくさんある。(30歳代・男性)
- ・空き家の有効利用のためにはまだまだ工夫が必要です。増えている一方です。(50歳代・女性)
- ・空き家対策の条例制定をして早急に取り組んでほしい。(70歳以上・男性)

●道路環境 6件

- ・道路環境は、全般的に舗装状態が悪く、継ぎ接ぎも多過ぎると思います。また、歩道の状態も悪いところが目立ち、整備が必要だと思います。(40歳代・男性)
- ・道路環境の安全性の向上。(70歳以上・男性)
- ・道路は新しい物が出るが、歩道を歩く者にとっては、車だけを見て人にはやさしくない。広い歩道は学生の自転車が数台揃って通り、老人は止まってよけるのくり返し。(70歳代・女性)
- ・弘前市は自転車に乗る人がとても多い(学生が多いこともある)と感じているが、元々の城下町の道の細さにとても苦労する。(20歳代・女性)
- ・交通マナーがとても悪いと感じる。赤信号でも平気で走ってきて危ない。(10歳代・男性)
- ・自転車のマナーが悪いと思う。(20歳代・女性)

●交通施策 2件

- ・高齢者や学生、障がい者など社会的な弱者(自家用車などを持ちにくいという意味で)が、公共交通機関と徒歩だけで、買い物はもちろん、医療、介護、遊びまで基本的なことができるような街づくりが必要だと思います。(60歳代・男性)
- ・予約型乗合タクシーの件について、地区のご老人から話を聞く機会がありました。その中で、相馬庁舎から自宅まで乗車をお願いしたところ、「このタクシーは乗合タクシーではないので」と言われ、当たり前のタクシー料金を支払ったとのこと。これでは、公共交通にならないのでは。(50歳代・男性)

●廃棄物・リサイクル 4件

- ・ごみに関しては、一般家庭の意識が低いのでもう少し再生資源ごみに関する広報が必要。(50歳代・女性)
- ・資源ごみ回収は、あまり改善していない。(60歳代・男性)

- ・ごみのリサイクル率が低いこと。全国的にはリサイクルの推進はあるかもしれないが、低い市なりの対策があまり感じられない。(10 歳代・男性)
- ・りんご園の剪定枝は現在野焼きしているが、ヨーロッパではあり得ないそうです。粉碎して肥料にすることはありますが、それをペレットに再生し、熱エネルギー（電力）にできないものかと毎年春に思っています。(50 歳代・男性)

●カラス対策 6 件

- ・弘前大学からUマート前を通過して土手町へ向かう途中、驚くほどカラスがいてゴミを荒らしているのを見かける。(10 歳代・女性)
- ・カラスが普通にゴミを食べているのを何度も見たことがある。(20 歳代・女性)
- ・カラス対策が不十分。ゴミ袋の中身が散らばっているのを時折見かける。(20 歳代女性)
- ・カラス対策も様々な対策をしているのを知っているが、解決には至っていないので、考えるべきだと思う。(20 歳代・女性)
- ・カラス対策は観光都市としてもっと力を入れてほしいと思います。カラスの糞害は、未だに多く、印象が良くない。(50 歳代・女性)
- ・カラス対策をもっと強力に進めてほしい。(70 歳以上・男性)

●その他 5 件

- ・まだ効果の出していない地域が多いと感じられる。(10 歳代男性)
- ・河川清掃美化運動は素晴らしいことだが、地域の人々に河川をきれいにしなければならないという意識を持たせるための活動をしていかなければ、河川はきれいにならないと思う。(10 歳代・女性)
- ・水がおいしくない。(20 歳代・女性)
- ・5 年前にこちらにやってきたが、そこから目に見えての変化がないので、良く分からないというのが本音です。(30 歳代・女性)
- ・行政は手をこまねいているのではなく、色々考えている事と思われるが、私達の生活に直に何が良くなったか感じられないことに問題はあると思う。(50 歳代・女性)

【この分野で今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデアなど】

●雪対策 37 件

- ・雪対策について、今後期待したいです。(10 歳代・女性)
- ・雪対策は頑張してほしいと思います。(40 歳代・男性)

～除排雪～

- ・大通りの除雪だけでなく、小道や少し狭い道路などの除雪を期待します。(10 歳代・女性)
- ・融雪剤を使い、除雪をしやすくするなど。(20 歳代・男性)
- ・朝の渋滞時に除雪をしないでください。(20 歳代・女性)
- ・冬期間の道路条件が悪い事も考えられるが、除雪の悪さがかなりあると思う。比較的大きな道でも除雪が行き届いていないことは非常に驚いた。これらの事は積雪があるから仕方ないでは済まない。(20 歳代・女性)
- ・冬の除雪、雪を捨てる場所のない地区への配慮。(30 歳代・男性)

- 冬期の除雪、生活道路の除雪をもっとまめに行っていただきたい。(30 歳代・男性)
- 予算の関係もわかるが、もっともっと路地の除排雪に力を入れるべき。(40 歳代・女性)
- 迅速な除雪。こまめな排雪を期待したい。(40 歳代・女性)
- 除雪に関しては、まだまだ大変かと思いますが、お互い様の気持ちでこれからの活動に期待します。(40 歳代・女性)
- 除雪作業、雪の片づけ方が業者により差があるのでは。(50 歳代・女性)
- 除雪についての細かな配慮がほしいです。(70 歳以上・女性)
- 雪対策で、交差点での融雪剤の散布が過剰と思います。融雪剤を散布したのち、雪で車も人も大変難儀しています。良い対策をお願いします。(70 歳以上・男性)

～歩道の確保～

- 除雪車を増やしてほしい。せめて通学路だけでもしっかりと除排雪をしてほしい。(10 歳代・女性)
- 通学路の除雪の強化。(40 歳代・男性)
- 通学路の除排雪を頻繁にお願いしたいです。(40 歳代・女性)
- 危険な道路わきの雪壁の早期除去。(40 歳代・男性)
- 降雪時の歩道の確保。空き家の方には連絡してほしい。(40 歳代・女性)
- 子どもたちが雪道を安心して歩けるようにしてほしい。(40 歳代・女性)

～間口除雪・除雪困難者の支援～

- 除雪活動について、毎年同じことのくり返しだが、除雪車の後の残雪処理には閉口してしまう。同じ高額な予算を使うなら道路両サイドに残す雪が無いような方法をとって欲しい。除雪車の改良(昨年の新聞で見た気がしますが…)。(40 歳代・女性)
- 除雪車が入った後の家の前の除雪がとても大変なのですが、何とかならないものでしょうか。特に高齢者の方は苦勞されていると思います。(40 歳代・女性)
- 他県から人を取り込むには、雪の対策が必要だと思います。小型の除雪機を市で準備し、有料で貸し出すなどしたらいいと思います。(40 歳代・男性)
- 高齢者世帯への除雪機の支給、レンタル、助成を行ってほしい。(40 歳代・女性)
- 地域除雪活動支援事業に期待します。ただ町内会の人員確保が難しいと思いますが。(50 歳代・女性)
- 市営住宅に住む高齢者にとって最大の問題である雪かき(出入り口前、物置の屋根)を大家の市が手助けをして欲しいと思う。(60 歳代・女性)

～融雪・流雪溝～

- 流雪溝の延長。(40 歳代・女性)
- 消流雪溝の整備、調整池の活用。(40 歳代・女性)
- 道路の散水融雪設備をもっと拡大させていってほしい。(10 歳代・女性)
- 融雪に関しては市民が使いやすいように設置の計画をしてほしい。各家庭の玄関先に融雪設備がないと意味がない。(50 歳代・女性)
- 道路等において地下水や温泉排水等を活用した散水融雪設備を試験的に実験しているようですが、早い時期に実用化されることを望んでいます。(70 歳以上・男性)

- 雪国の住民にとって雪との付き合いは宿命である。少しでも快適な暮らしができるよう、雪対策を徹底してほしい。例えば、計画的な交差点のロードヒーティングなどはできないのでしょうか。(70歳以上・男性)

～雪置き場～

- 町会雪置き場事業はとても良いと思う。(30歳代・男性)
- 市の雪捨て場には多量の雪が持ち込まれます。それが融けだすと黒い状態となり、夏には汚泥のような状態です。そのままの状態乾燥すると有害な物質が風で飛散しないか心配です。融け終わったあとの雪捨て場の整備はどのようになっているか心配です。土壌分析などしているのでしょうか(有害残留物の確認)。(60歳代・男性)

～その他～

- 除雪に関して雪をコントロールすることができれば素晴らしいことだと思いますが、多くのエネルギーと労力、資金を必要とします。なかなか難しいのではないのでしょうか。職員の心労を察します。(50歳代・女性)
- きれいに雪かきしている町内会へ何かのご褒美を出す。競ってくれたらなお良し。(40歳代・女性)
- 人口14万人とは、昭和40年代の人口に戻るとのことだと思いますが、きめ細やかなサービスを提供するのは困難だと思います。全く後ろ向きの発想で恐縮ですが、モデル地区(事業)として「全く除雪しない」実験をしてみてもどうでしょうか。画期的な技術革新がなければ何もできない時代がやってきます。(50歳代・女性)

●都市環境 1件

- 市には公園、広場がたくさんあり、良く手入れされており。遊具や水飲み場があり、トイレがあるところもある。でも人が憩う場としてではなく冬の雪捨て場が主な目的であろうと見える(長四郎公園みたいなところもあるか)。私の知っている限りでは、公園・広場はすべて「犬・猫は入れない」弘前市の立札が必ずある(犬の散歩が認められる公園が長四郎公園以外1~2できたが)。私はこの立札を見ると弘前市民はこれほどマナーを守れない市民なのかとつくづく思う。ペットの犬と散歩して疲れたら公園のベンチに休み、水を飲み、トイレを使い、遊んでいる子どもと犬の話をして憩える公園であってほしい。管理優先ではなく。禁止の立札は市が義務付けているのだから、禁止するだけではなく、別な方法があってほしい。(70歳以上・女性)

●移住・定住 2件

- 移住希望者となりうる人は大学生も多いと思うので、大学周辺に何かすこししやすい建物をつくってほしい。たとえば駐車場など少なくて困る。弘大生にとって娯楽施設が城東方面に多いので遠くて不便だと感じている人が多い。(10歳代・女性)
- 移住コンシェルジュの活動に期待したい。移住検討者に、弘前の良いところだけでなく、現時点でのマイナス面もきちんと説明したうえで、移住に結びつけてほしい。(40歳代・女性)

●市街地整備 4件

- 駅前整備が進むと、また土手町の活気も戻ってくると期待しています。中心街が活気づくことで弘前の経済もよくなってくれればと思っています。(30歳代・女性)
- まちづくりについてですが、弘前駅の周囲に大きな空き地のような場所がありあました。夏になると駅前がねふたで賑わいます。なのに、空き地になっているのはもったいないと思いました。(10歳代・男性)
- 駅前地区(見た目だけでも)城下町景観統一計画。観光客にアピール作戦。(40歳代・女性)
- 弘前城から弘前駅へのエリアを、コンパクトな空間として整備して、徹底的なバリアフリー化を行ってほしいです。高齢者や障がい者、学生は、郊外型の店舗を利用するのが困難です。観光客もそう

いう意味では、一時的な社会的弱者ともいえます。こういう空間は、観光客にとっても便利なわけですから、観光客誘致にも役に立ちます。(60歳代・男性)

●空き家対策 4件

- ・空き家事業は特に頑張ってもらいたい。(30歳代・男性)
- ・倒壊の危険がある空き家対策を実行に移してほしいと考えます。(50歳代・男性)
- ・空き家・空き地の活用事業に期待します。移住者や子育て家庭など利用できるのではないかと考えます。防犯にもなると思います。(50歳代・女性)
- ・空き家・空き地の活用事業の一環としてNPO法人の拠点の例もあるようですが、今後の課題として、中心市街地の広めの場所を、複数のNPO法人の拠点として事務所を置き、季節限定のマルシェなど、協働イベントも行えるような弘前市NPOセンターとしての活用ができれば良いのではと思っています。様々な年代の人達が集い市街地の活性化にも繋がると思います。(70歳以上・女性)

●文化財の保全・整備 3件

- ・文化財の保存と整備。(70歳以上・男性)
- ・魅力的な景観や文化財が多いので、活かしていただきたい。(10歳代・男性)
- ・子どもまたは親子向けの景観の日事業。弘前にはたくさんの歴史的建造物や神社仏閣などがあり、趣のある建物の魅力的な冊子も観光案内所などに置かれていて、県外の観光客の方々がそれをもとに町歩きをしている姿も見受けられます。そこで、夏休み・冬休みに、親子や子ども対象の町歩き事業を継続できれば素晴らしいと感じています。子どもの頃に弘前の歴史や文化の香りに親しむことはそうした物への誇りと大切に守り伝える心を持った大人になる素地になるのではないのでしょうか。弘前には案内役の人材も潜在的にたくさんいるように思うので、ガイド養成講座とあわせて出来たら良いと感じています。(70歳以上・女性)

●道路環境 11件

- ・道を広くしろなんて言わないから、ただもう少し歩道をきれいに直してほしい。ガタガタすぎるどころなどは、正直、自転車だけでなく高齢者にも厳しいし、とても危ないと思う。(20歳代・女性)
- ・岩木地区に太陽の光で見えにくくなる信号があります。市街地にあるような見えやすい信号に変えて下さい。(20歳代・女性)
- ・冬の渋滞対策としての道路の整備。(40歳代・女性)
- ・道路の白線表示はどこで担当しているかわからないが、消えてわからないところが相当見受けられる。(70歳以上・男性)
- ・狭い歩道は車道に向かって車が出やすいように斜面になっていた。病院に毎日通って痛感。斜面になっている歩道をバランスをとりながら歩くのは、平衡感覚が衰えている老人にとってはつらい。人(特に老人)に目線を向けてほしい。車優先ではなく。(70歳以上・女性)
- ・市内貸し出し自転車拠点充実作戦。(40歳代・女性)
- ・各高校前に自転車専用道路を整備。特に朝は自転車が多く、自転車も車も急いでいるので危ない。(20歳代・女性)
- ・車いすや自転車が安全に、車よりも優先的に走行できる道路を弘前城から弘前駅へのエリアに設置する。(60歳代・男性)
- ・車いす、自転車についていえば、雪の問題がネックになっていますので、車椅子・自転車専用道路については、融雪が前提です。同時に、弘前市内の広域から中心市街地エリアまでの自転車での乗り

入力を確保（冬季の雪対策を含め）しないと効果がありません。冬も市内で車いす、自転車が使えれば、社会的弱者層にとって生活は大きく変わると思います。（60 歳代・男性）

- ・駅前から城東に抜ける地下道で自転車に乗ったままの通行が許可されないのは不合理です。安全性を理由にしていると思いますが、一般道路の歩道で、自転車走行可としているところがありますが、あれだけの幅がありますか？地下通路を、片側通行にして、歩行者レーンと自転車用レーンに線を引いて分ければ、安全に通行できるはず。城東側から駅前に自転車で通行したい人の流れを妨げていると思います。（60 歳代・男性）
- ・細かったりガタガタにかこつけて突然道を自転車で横断したりする人がいる。狭いのに傘さし運転やライトをつけない人たちが減るように、小・中からのきちんとした教育が必要だと思う。事故を減らす近道では。（20 歳代・女性）

●交通施策 7 件

～公共交通～

- ・人口が少ない地域の交通網の整備。家から大学までの公共交通機関がないため。（20 歳代・女性）
- ・バス交通網の一層の充実。（40 歳代・男性）
- ・公共交通も市街地は 100 円バスなど便利になっていると思う。市街地に遠いエリアでは通学に利用するにも負担が大きく、結果的に利用する人が少ない。高齢者だけでなく学生にも補助を。（40 歳代・男性）
- ・高齢者や学生に特に配慮した公共交通の整備。（40 歳代・女性）
- ・100 円バスの利用が多くなってきているので、コースをもっと多くしてほしいと思う。城東方面はあるが、城西方面にはまだないので。（60 歳代・女性）
- ・私は弘前の出身ではなく、一年程しか弘前に住んでいないので、変化についてはあまりわからないが、移住して、学生の足となるバス等の公共交通機関が少なく感じた。更に冬期間では定刻に大幅に遅れたりバス停が雪でわからなくなる等があった。これは雪の影響だが、放置すべき問題ではない。私の地元は弘前よりも積雪が多い町だが、冬期間は、バス職員が乗用車でバス停を周り、バス停周辺の雪を取り除いている。（20 歳代・女性）

～その他～

- ・普段車で移動するのにそんなに苦労はないが、駅付近に用事があるとき、駐車場所に困る。ヒロロや周辺の施設が開いている時間であれば問題ないのだが、9 時以降まで用事があるときは車の置き場所に困る。駐車場がないわけではないが、どこも使いにくい。駅近くに立体駐車場があると助かる。（10 歳代・男性）

●廃棄物・リサイクル対策 9 件

- ・環境面では、本当に素晴らしい取組だと思います。（10 歳代・女性）
- ・弘前市指定のゴミ袋とその有料化によってゴミの減量につながると思います。（50 歳代・女性）
- ・ゴミの収集は良くなってきた（民間業者の意識が良い）。（60 歳代・男性）
- ・ゴミについては、町会の応援・協力。（60 歳代・男性）
- ・衣類の回収 BOX が始まりましたが少な過ぎだと思います。出張所・町会の施設等増やすことはできないのでしょうか。紙類のリサイクルごみも同様、家での分別方法を提案してみてもどうでしょうか。（30 歳代・女性）
- ・ゴミの分別が不十分だと感じる。特に燃えるゴミ、燃えないゴミの取締りが不十分。誤った分別であれば、回収せずに理由書を添付し、市民の考え方を改めるべき。（20 歳代・女性）

- プラごみ・紙ごみの分別はなぜ行わないのでしょうか。資源の問題は、多少費用がかかっても行うのが当然だと思います。(60 歳代・男性)
- ゴみの分別について、理解していない人が多くいます。むしろ理解しようとしていないのかもしれない。一人一人の力で、大きな力になることを伝えてほしいです。(30 歳代・女性)
- ポイ捨てが頻繁に見受けられます。畑や田に様々な物が捨てられていて、雪が溶けてから目についたためショックを受けました。ポイ捨ての禁止を再度呼びかけてほしいです。(20 歳代・女性)

●カラス対策 5 件

- カラスがよりつかないような工夫をすべき。ネットがやぶられて意味ないです。(20 歳代・女性)
- カラスには大変困っており、今後の対策に期待しています。(30 歳代・女性)
- 特定地域のカラス対策のために、他地域に害が出ないように留意してほしい。追払ったカラスが他地域にそのままそっくり移動していたのでは意味がない。(30 歳代・女性)
- カラスの生態に関する研究者は、弘前市にいますか。例えば、雄雌の見分け方、求愛行動、鳴き声の分析などの研究から、個体数の減少に役立つ方法を発見できないでしょうか。(50 歳代・女性)
- 時間がかかると思われるが、カラス対策のアイデアが今一步。(60 歳代・男性)

●その他 7 件

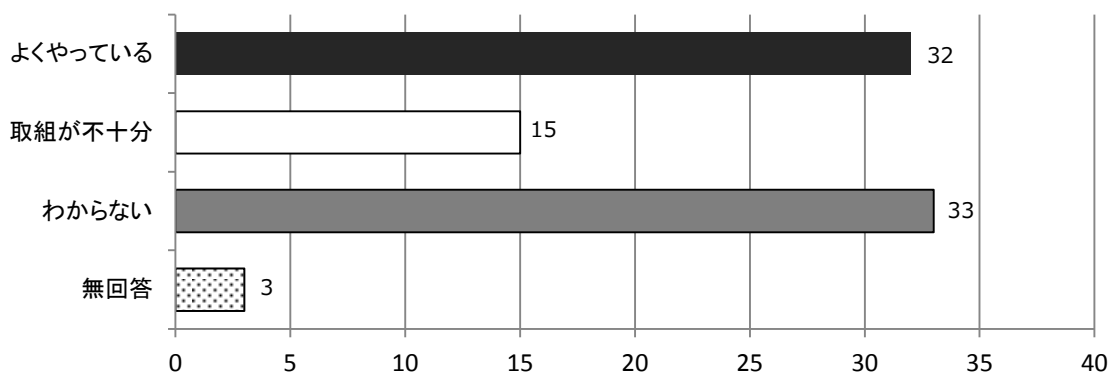
- 住み良さに直接つながることですし、目にも見えやすい分野ですので、各町会単位で意識を高めていってほしい。(50 歳代・女性)
- まず市民に知ってもらう事が大切ではないだろうか。限られた財源の中で、すべてを行うことの難しさを全市民で考えよう、ぐらゐの意気込みは必要かもと思う。(50 歳代・女性)
- 各町会における自主的なまちづくりの取組の発掘を早急に実施して発表(1%の助成活用もあるが)。もっと小さな市民活動の活用を訴えたい。(70 歳以上・男性)
- もっともっと市民の自主活動の理念を向上させてほしい。ただ行政に頼るだけでは地域は変わらない。(70 歳以上・男性)
- 市営住宅に住む高齢者は多い。新築時入居した方は 80 代で 4 階、3 階に何人も居る。転居はお金がかかるため、施設入居になるまでは、不自由でも。(禁じられているため、手摺も付けられず。希望者には許可してはどうか。)(60 歳代・女性)
- 白神山地からひいている水なのにおいしくないのは問題です。ダムとかの汚れとかでは?(20 歳代・女性)
- 下水道の整備。(70 歳以上・男性)

6. 分野別政策 なりわいづくり

激化する国・地域間競争や地域格差の拡大に対応するため、地域資源の付加価値を高めるとともに、新たな取組への支援を行うなど、地域の総合的な産業競争力の向上を図る。

「なりわいづくり」の分野における市の取組についてどのように感じていますか

「なりわいづくり」の分野においては、「わからない」と答えた人が33人(39.8%)となっており、「よくやっている」と答えた人32人(38.6%)を上回る結果となった。「取組が不十分」と答えた人は15人(18.1%)となっている。



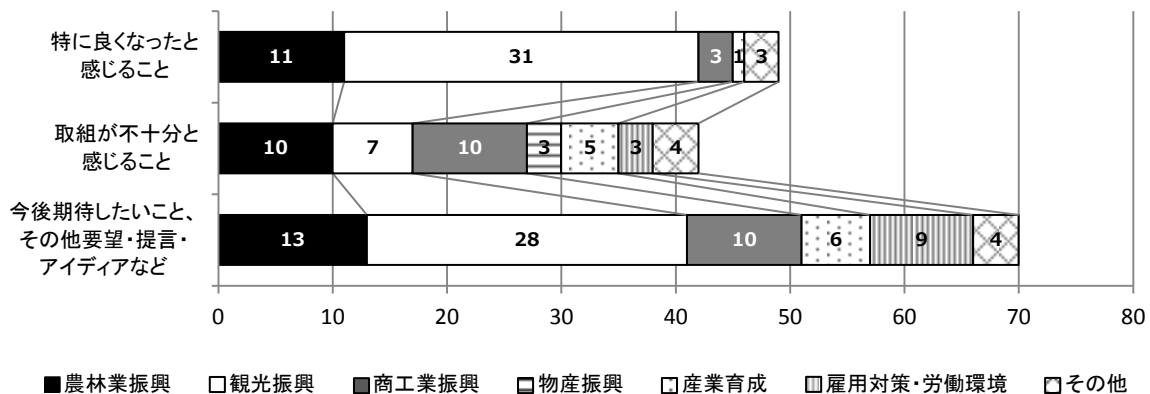
「なりわいづくり」の分野における自由意見

「なりわいづくり」の分野について「特によくなったと感じること」「取組が不十分と感じること」「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデア」について意見を聞いた。

「特によくなったと感じること」については49件の意見があり、分類すると、観光PRや観光面での取組がよく行われている、弘前城本丸石垣整備事業はよかった、など観光振興に対する意見が31件と最も多くなっている。次いで、基幹産業であるりんごのPRや付加価値向上のための取組など農林業振興に対する意見が11件となっている。

「取組が不十分と感じること」については42件の意見があり、分類すると、りんご以外の農産物等にも力を入れて欲しい、農業における新たなチャレンジ、農業後継者の育成など農林業振興に対する意見と、中心市街地の活性化、商工業の活性化など商工業振興に対する意見が、それぞれ10件と最も多くなっている。

「今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデアなど」については、70件の意見があり、分類すると、観光客の立場に立った受入環境整備やPR、北海道新幹線開業に向けた取組など観光振興に対する意見が最も多く28件、次いで農林業振興に対する意見が13件、商工業振興に対する意見が10件となっている。



【この分野で特に良くなったと感じること】

●農林業振興 11件

- ・農業関係について、全般的に報道やPRが目につき、やっってる感が伝わってきて良いと思います。(40歳代・男性)
- ・六次産業の取組は良いと思いました。作る側も、ますます熱心になるし、買い手も興味を持っていると思います。(10歳代・女性)
- ・農産物の付加価値向上のため様々な取組を支援していることは評価できます。(60歳代・男性)

～りんご～

- ・りんごと祭りの取組はよくみかけるので良いと思った。(10歳代・女性)
- ・弘前のりんご園では、品質向上のために地域ごとに講習会を行うなど、頑張っている様子をラジオで聴きました。(30歳代・女性)
- ・りんご等地域の特産品の全国へのPR(横浜へ帰省した際、市長さん、たかまるくん、職員の方々が頑張っている姿をみかけ、嬉しくなりました)。(40歳代・女性)
- ・弘前りんごの外に向けたPRについては、良く目にしたり耳にするようになりました。(50歳代・女性)
- ・リンゴや観光に関しての政策については、一定の成果があると思います。(60歳代・男性)
- ・りんご園の改植事業、りんごの消費拡大などのトップセールスはすごく良いと思う。(70歳以上・男性)

～担い手育成～

- ・後継者不足解消に向けて、インターンシップなどがあると実際に実情を知ることができるし、農業を始める機会にもなるし、輸出促進することで、消費が増えるため経営の安定が見込めるようになること。(10歳代・男性)
- ・ひろさき農業インターンシップ事業。市の学生を活用している。(20歳代・男性)

●観光振興 31件

- ・りんごと祭りの取組はよくみかけるので良いと思った。(再掲)(10歳代・女性)
- ・リンゴや観光に関しての政策については、一定の成果があると思います。(再掲)(60歳代・男性)
- ・観光に関しての事業は良くされていると思う。観光客も多く見受けられるし、市のキャンペーン等も充実していると思う。(20歳代・女性)

- ・弘前城の石垣修理や桜まつり、ねぶたまつりなど頑張っていると思う。(10 歳代・男性)
- ・観光振興・四大祭り、弘前城など活発にプロモーションされており、知名度は東北随一になったと思う。(30 歳代・男性)
- ・外に向けての観光PRは進められているなど感じる。(40 歳代・男性)
- ・観光面は良くなってきていると思う。お祭り期間以外でもお客様が多く見られる。(60 歳代・女性)
- ・観光客（特に熟年層）が多くなったと思う。(60 歳代・女性)
- ・観光客受入環境の整備促進。観光パンフレット、石垣修理のPR。(70 歳以上・性別無回答)
- ・観光について、四季を通じて行事があり、自慢できる観光資源がたくさんある。企画も積極的であれば良かった。自然を活かしてこれからも工夫してほしい。(60 歳代・男性)
- ・イベントが多くなった。(40 歳代・女性)
- ・観光の目玉。弘前城と桜の管理。とても充実していて感謝です。(40 歳代・女性)
- ・観光資源の魅力の強化。(70 歳以上・男性)
- ・身近なところでは観光面とヒロ口。(70 歳以上・女性)
- ・観光資源のPR。桜祭りやねぶた、ねぶた祭りで県外や外国からの客が多いことを実感した。(20 歳代・女性)
- ・誘客活動の展開。四大祭りを見に行っただが、本当にたくさんの人が集まっていて、青森ねぶた、弘前ねぶたの良さをアピールすることができていたと思う。(10 歳代・女性)
- ・弘前の四大祭りはやはり素晴らしいと思います。四季を感じることができ、これからもずっと続いてほしいと思っています。(10 歳代・女性)
- ・まつりが充実していてすごい。先日、弘前城リレーマラソンに参加させていただきましたが、素晴らしかった。一体感到感動しました。まつりとは、その地に住んでいる者（住んでいない者も）達の団結力を生み出すものだと感じました。(30 歳代・女性)
- ・さくらまつりは県内外の人はもちろん、海外の人も多く来る。ここ最近はその国籍も多様化していると感じる。特にアジア圏の旅行者が多いようだ。これは、弘前の宣伝のおかげだと思う。(10 歳代・男性)
- ・長年内容が同じだった（ような感じがします）4 大祭りですが、近年変化がみられ、新たなイベント等の催しがあり、行ってみようと足を運びきっかけが増えたような気がします。(30 歳代・女性)

～弘前城本丸石垣整備事業～

- ・石垣の修理を上手く利用して観光客を呼んだと思う。(10 歳代・男性)
- ・弘前城石垣修理はPRがうまくいったと思う。(50 歳代・男性)
- ・城の石垣PRは、公園全体のPRにもなった。(60 歳代・男性)
- ・弘前城の石垣についてのPRはとてもよかったと思います。100年に一度と言われている事業を有効に活用することによって観光客の増加に繋がると思います。(50 歳代・女性)
- ・弘前城石垣修理PRイベントは、市民に石垣修理をPRすることで、来場者も多く、とても活発的であった。(10 歳代・女性)
- ・弘前城の石垣は、今年のさくらまつりで、多くの観光客が来て見れたので。(10 歳代・女性)
- ・百年に一度のイベントだから「お城が動く」PRも良いと思う。(60 歳代・女性)

- ・弘前城石垣修理PR イベント事業は、百年に一度のキャッチフレーズの大改修と天守閣の曳屋と合わせた事業として、メディアでも広く宣伝され、弘前は全国的にもこれまでに無いような注目を集めているようです。市が力を入れている取組の成果だと思う。この事業が完成するまで様々なアイデアを盛り込み、弘前市の四大祭りとマッチングさせながら観光の目玉として継続していくものと想像しています。(70歳以上・女性)
- ・石垣修理や北海道新幹線開業とからめた観光PRは、県外でも目にする機会があったので、着実に進められていると感じる。(40歳代・女性)
- ・弘前城石垣修理も県外の友人も知っていて、見たいと言うほど広報活動は行われていると思います。(50歳代・女性)
- ・弘前城石垣修理PR事業など、観光振興には相当力を注いでおり、引き続き観光客が来るように施策を展開してほしい。(70歳以上・男性)

●商工業振興 3件

- ・ヒロロは子供を連れて遊べる場、イベント開催の場所として利便性がある。(50歳代・女性)
- ・ヒロロのオープンによって市民イベントの拡大や市民が集う場となっただろう。実際にヒロロでは学生から主婦、お年寄りまで幅広い年齢の人々を見ることができる。(20歳代・女性)
- ・身近なところでは観光面とヒロロ。(再掲)(70歳以上・女性)

●産業振興 1件

- ・弘大とのタイアップ等で弘前発のものが出来ている事は、ちょっと自慢に思う。(40歳代・女性)

●その他 3件

- ・地域のブランディング事業が盛んになり、支援も増えてきた。(30歳代・女性)
- ・市民力を生かしながら、地域おこしを進めていくという点は良いと思う。(30歳代・女性)
- ・限られた中で限られた人はすごくがんばっているのかなと思うが、受け手である市民のアンテナを張って興味を盛り上げる事に欠けるのかな、いま一つ伝わってこない気がしています。(50歳代・女性)

【この分野で取組が不十分と感じること】

●農林業振興 10件

- ・りんご中心の対策になっている。(60歳代・男性)
- ・弘前市はりんごだけではないと思います。リンゴの生産、販売の促進だけでなく、他の農産物や工芸品にも力を入れてほしい。(40歳代・女性)
- ・農産物のPRで市長が出ていく必要はない(知事も)。りんごで言えば、美容と健康を毎年しっかり宣伝すべき。(50歳代・男性)
- ・弘前と言えばリンゴだが、全国的に見れば弘前リンゴの知名度はそんなに高くないのではないかな。弘前リンゴとしてブランド化できるのが望ましい。(10歳代・男性)
- ・りんごも大事だが、米農家の悲痛な声をどう助けていくか。(40歳代・女性)
- ・農業の新たなチャレンジ。(70歳以上・男性)

～担い手育成～

- ・農業後継者の育成が必要。高齢化が進み、事故等の発生が予想される。(70歳以上・男性)

- 若い力を農業の後継者として受け入れていくための思い切ったプロジェクトを進めてほしい。農家の方が集まると担い手がいなくて困っているという話がよく聞かれます。(50歳代・女性)
- 農業においては担い手不足以上に働き手不足が深刻である。規模が拡大すれば必要な機械も増える。農業専用機械には補助があるが、その他必要な車両等は補助対象外。県や国と併せ補助適用拡大を望む。(40歳代・男性)
- 将来の農業の担い手育成は大変重要なことです。農業インターンシップ事業が展開されているようですが、この事業が機能しているか疑問です。どのような形で行われているかもわかりません。弘前大学の学生等とありますが、弘前大学出身で即農業自営をする人が何人いるかです。それよりも、市内各地域で現在大規模経営や中核的規模で取り組んでいる農家を調査し、親とその子息に調査を行い、将来就農希望がある場合は、就農奨学金(在学中の農業研修やデュアルインターンシップなどの補助も含む)制度を設け、ピンポイントで育てていくことも必要ではないかと考えます(JAや農業委員会や地域県民局、県営農大大学校、農業高校と連携した形で)。(60歳代・男性)

●観光振興 7件

- 観光客誘致について、弘前で観光客が集中する期間が限られているように思う。通年で楽しめる弘前の魅力を発見・アピールする必要があると思う。(20歳代・女性)
- 函館に行ったとき、新幹線開業に向けてのイベントやキャンペーンを行っていました。対策事業をやっているみたいですが、いつ行われているのかわかりません。(30歳代・女性)
- さくらとねぷただけに頼らず、一年を通じて安定した観光資源をつくってほしい。(40歳代・女性)
- 特に観光について、どういうストーリーのもと観光について考えているのかが見えてこない。(特に)現場にいる人たち、例えば観光館とかりんご公園とかにいる人たち、本当に観光客を迎える気があるのか、よくわからないことが多い。皆、どういうストーリーを描いているのか気になる。(30歳代・女性)
- さくらまつりは外国人観光客にも人気がありますが、外国人観光客に対してのもてなしが、まだまだなっていないのではないかなと思う。(10歳代・女性)
- 会議所が取り組んでいるりんごイベント、不発に終わっていませんか。もっとりんご農家の実態とあった活動をしてほしい。りんご現場からほとんど学んでいないと思う。認識がずれているように思えてなりません。(70歳以上・男性)
- ねぷたまつりの安全性。(20歳代・女性)

●商工業振興 10件

- 商業面。(10歳代・男性)
- 商工業振興・活性化が感じられない。(30歳代・男性)
- 中心街・商業施設の活性化。(40歳代・女性)
- 中心市街地において人の往来は活発になったと書いているが、実感がまったくない。(30歳代・男性)
- 弘前市は全国的に有数の観光地として知られており、まつりの期間中は活気あふれる街ですが、シャッターの閉じた店舗も多く通常はあまり活気が無いように感じる。(40歳代・男性)
- 買い物したい場が少ない。学生が多いのでそれらをターゲットにした場所も欲しい。(10歳代・男性)
- 土手町復活。人が集まる街にする。かくはデパートやハイローザのようなショッピングエリア。(40歳代・女性)

- ・商業活動の活性化。土手ブラをして、小さなお店をのぞいたり、コーヒーを飲んだり、チョット一杯ビールと焼鳥でっていう感じがほしい。18:00でシャッターお閉りてるとどうということ？！ってなります。(50歳代・女性)
- ・不採算店舗の維持・管理。(40歳代・女性)
- ・「ヒロロ」は青森のアウガになりそうな気がする。普段、フードコートに学生は集まるが、店にはあまり行かない人が多いと思ったから。(10歳代・女性)

●物産振興 3件

- ・弘前市はりんごだけではないと思います。リンゴの生産、販売の促進だけでなく、他の農産物や工芸品にも力を入れてほしい。(再掲)(40歳代・女性)
- ・伝統工芸品のPR。周囲でのあけびづる細工や藍染、ガラス細工などの工芸品に対する理解が低い。また、青森藍、自然の藍、それぞれ良い所があるが違いが伝わらず、自然の藍の立ち位置が価格を理由に危うくなっていることが不当に感じる。(20歳代・女性)
- ・新青森駅の売店に「弘前のおみやげ」が少なかったように思う。(60歳代・女性)

●産業振興 5件

- ・青森や八戸、五所川原に負けない企業誘致。(40歳代・女性)
- ・農業以外の産業の育成。動きをあまり感じないし、企業誘致が必要。(40歳代・男性)
- ・農業、観光以外の産業については、取組はないのか。確かに農業はいろいろな面で岐路に立たされているが、他の産業、全く新たな産業を産みだすなどのアイディアはないのか。(30歳代・女性)
- ・学生発ベンチャー創出事業をもっとアピールしてほしい(知らない人が多い)。(10歳代・女性)
- ・りんごと観光以外の産業が停滞していると感じます。(60歳代・男性)

●雇用対策・労働環境 3件

- ・従事者の高齢化が進んできているので、どうにか考える必要があると思う。(60歳代・女性)
- ・就職氷河期の頃に社会人となった若者たちの多くがアルバイトや非正規で働いているように思います。新卒者と同じような就労機会が与えられていないのではないのか。(50歳代・男性)
- ・福祉の現場での労働の環境が変わらない。(30歳代・女性)

●その他 4件

- ・まだまだ、開発されるべき地域資源について検討が必要だと思う。(30歳代・女性)
- ・地元にはわからない商品が、首都圏で売られていてびっくりしたりします。大学と共にいろいろな事をやっているのだと考えさせられますが、地域の人々にはあまり感じてもらえていないという事なのだと思います、そこを何とかしていければと思います。(50歳代・女性)
- ・産業の停滞は、人口減少問題と関係があると言えます。どの年齢層の人口が減りどが増えているか、大学生の年齢の人口の出入りがどうなっているかのデータがあり、その分析ができていのであれば、市民に公開してもっと意識をもってもらおうよう努力すべきだと思います。(60歳代・男性)
- ・平成27年度の事業費が不足ではないか。(70歳以上・男性)

【この分野で今後さらに期待したいこと、その他要望・提言・アイデアなど】

●農林業振興 13 件

- ・近年の異常気象に対応した、農家に対しもっと助成及びわかりやすい対策を講じてほしい。(30 歳代・男性)
- ・りんご以外にも弘前ならではの農産物をバックアップしてほしい(清水森ナンバ等)。(30 歳代・女性)
- ・弘前市のりんご産地を農業世界遺産登録へ取組みと実現を期待します。(70 歳以上・男性)
- ・木村秋則氏が実施しているりんご自然栽培の普及と拡大を早急に進めてほしい。(70 歳以上・男性)
- ・弘前リンゴのブランド化のために商品開発をぜひ行ってほしい。シードルを作ったりいろいろやっているのは地元の人には伝わっているが、県外の人に知ってもらわなければいけないと思う。そのためには全国的に商品を販売する必要がある。ネット販売も一つの手だと思う。(10 歳代・男性)
- ・地域競争では、りんごと米などで頑張っていってほしいです。(10 歳代・男性)
- ・米について「弘前〇〇米」のような銘柄を作って PR できないか。(60 歳代・男性)
- ・農家の明るい未来展望。(40 歳代・女性)
- ・農業後継者不足の原因は何か、収入が不安定。(50 歳代・男性)
- ・担い手の育成と経営安定化に向けた支援など。(70 歳以上・男性)
- ・国の施策が認定農業者や農業法人でないと農業をする資格がないような最近の動きです。しかたのないことかもしれませんが、小農経営者や年収 400 万円以下の農家も弘前市にはたくさんいて、豊かな田園や農村環境を守り、農業生産に励んでいることも忘れないでほしいと思います。(60 歳代・男性)
- ・若者の就業対策として、耕作放棄地を活用した野菜や花卉栽培起業者の育成と起業運営資材購入支援事業。弘前でも最近では冬にも夏野菜を食べる食習慣が増え、また、弘前は一年中様々な催しもので華やかな花が飾られ、企業や家族のイベントにも花が贈られるようになっています。そうした際の花の多くは現在、他地域で栽培された花が使われていると思われる。環境にも人間にも優しい食材を考えるとフードマイレージの小さい地産地消の食材が注目されている今、雪の多い弘前ではありますが、平川市や弘前の一部の方々によって行われている野菜や花卉作りを、自然エネルギーを利用するなど若者の夢を拓ける魅力的な職業として、国や県の制度を取り入れながら弘前市が取り組むことが出来たら素晴らしいと思っています。(70 歳以上・女性)
- ・林業の現状・課題についての情報が不足しているのではないか。(70 歳以上・男性)

●観光振興 28 件

- ・りんごをいろんな所に広めたり、四大祭りを行ったり本当に素晴らしい取組だと思います。観光で弘前が有名になることはとても嬉しいです。(10 歳代・女性)
- ・“りんご”と“桜”がなくては、弘前の魅力は語れないと思うので、この 2 つだけは大事にした政策を忘れないでほしい(他の市町村と差別化できるのはこの 2 つだけだから)。(30 歳代・女性)
- ・観光客をどう呼び込み来た人たちにどうアピールしていくのか、全然考えが伝わってこない。たとえば、弘前の眠っている観光資源の発掘、それらを既存の資源とを観光客の視点に立ってストーリー立ててつなぎ、どうやって観光ルートを作っていくかが全然見えてこない。(30 歳代・女性)
- ・弘前城石垣修理 PR イベント事業に期待します。可能な限り市民や観光客が参加できるイベントがあればいいと思います。(50 歳代・女性)

- ・観光者宿泊は安定していない。(50 歳代・男性)

～りんご関連イベント・りんご公園～

- ・弘前市のイメージとしては、「桜・ねぶた・リンゴ」が強いと思います。各イベントを行っていると思いますが、「リンゴ」のイベントが、桜・ねぶたに比べ少し弱いと思います。期間限定したイベントを広げた形をやってもらいたいです。(40 歳代・男性)
- ・もっともとりんごに特化してほしい。一年中りんご色の街ひろさきにしてほしい。(70 歳以上・男性)
- ・弘前で世界りんご祭り大会を開催する。一年でもよい。それだけの資産だと思う。(70 歳以上・男性)
- ・りんご色の街弘前市 ①りんご自然栽培で作ったりんごの活用。ジュース、アップルパイ、りんごタルト、シードル、カルバドスなどの活用 ②①のりんごでできたものを、消費地へ送って消費してもらうのも大切だが、消費地から弘前へ来てもらう事が今はもっと大切だと思う(地域の観光資源としての活用)ので、月1回か2カ月に1回必ずりんごに関するイベントを開催する。弘前では一年中何かのイベントが開催されていることを日常化させ、県外から観光客を呼ぶこと。他に、焼きりんご、りんごの枝樹の活用、冬落葉したりんごの樹の観察と剪定会などやろうと思えばいろんな事ができると確信しています。(70 歳以上・男性)
- ・弘前市のりんご公園の拡大充実をもっともっと望み期待します(もちろん活用も)。(70 歳以上・男性)
- ・観光に来た人の立場に立ったアピールがないと感じる。イベント時にりんご関連施設に立ち寄ったが、案内が全くなく、こちらから聞かないといけない始末だった。きちんと案内されたら、商品の購入にも繋がると思う。実際に現場にいる人たちの意識改革も必要だと思う。人が集まる絶好のチャンスなのに、それを全てムダにしている。(30 歳代・女性)

～体験型観光～

- ・祭りが無くても観光客が来たいと思える環境づくり。ねぶた村や伝統工芸品の体験ができる店など魅力がたくさんあるのに、十分に伝わっていないため、ネットで簡単にその魅力を伝える、おすすめの観光地をまとめたサイトを作ってください。交通手段や飲食店も紹介されるとより良いです。(20 歳代・女性)
- ・観光施設に来ていた人が、「ここは何もないのか」と皆さん帰ってしまっていました。きちんと説明があり、作っているのを見学したり、参加したりできたら違うのになあと思います。体験型活動を推進する施策に期待したいです。(30 歳代・女性)
- ・弘前には多くの観光資源が眠っている。しかし例えばバスツアーなどを探しても「りんごもぎ体験ツアー」などは殆ど見当たらない。そういった点においても活かされていらないと思う。もっとも本腰を入れて考えてほしい。(30 歳代・女性)
- ・自然・歴史・文化・伝統、それぞれの分野において、体験できる施設・取組が必要だと思います。他の地域の人も市民もリピートするような魅力的なものがあったら嬉しいです。(30 歳代・女性)
- ・古都ひろさきを活かした観光、米・りんご収穫などの体験をもっと盛んにし、観光などの産業も向上してほしいです。(30 歳代・女性)

～ねぶたまつり～

- ・ねぶた運行の安全性の確保。(40 歳代・女性)
- ・市民の閉鎖感が大きいと感じた例にねぶたまつりがある。路肩に席取りがびっしりされ、観光客、よそ者は寄せ付けられないというような雰囲気を感じた。仮にも観光客を誘致したいのなら、他にやり方を考えるべきだ。(20 歳代・女性)

～受入環境整備・インバウンド～

- ・多様化する観光客への十分な対応（言葉や習慣）。(40 歳代・女性)
- ・海外の方へのガイドができる人材の育成が必要と感じています。大学生などの若者を対象に養成講座を行い、弘前の観光にとって大切な方々として定住できれば、人口減少の一助にもなりそうです。(70 歳以上・女性)
- ・観光通訳や外交員の雇用、配置。（すでにやりましたか？）(40 歳代・男性)
- ・弘前駅も東京駅のような電子時刻表などは英語でも表示すればいいと思う。(10 歳代・女性)
- ・ひろさき観光情報発信事業や Wi-Fi 環境整備事業は、スマートホンなどで簡単に観光情報を得ることができ、便利になると思います。しかし、セキュリティーが確実でないと、利用しないと思います。セキュリティー万全という発信ができますか。(50 歳代・女性)
- ・弘前城から弘前駅へのエリアは、観光エリアでもあるので、特に、障がい者が観光しやすいようにバリアフリー化して、障がい者が観光しやすい街を広報するのは、観光政策として有効だと思います。障がいのある方がご家族にいらっしやると、観光できる場所が限られるので、家族旅行も困難になります。バリアフリー観光を徹底し、周知すれば、障がいのある方を家族に持つ方々の家族旅行が増えます。その際に、コミュニケーションと摂食・嚥下障がいのバリアフリーも必ず含める政策を実施してください。コミュニケーションに障がいのある方に対応できるというのは、全国的にも多くはありません。さらに、摂食・嚥下障がいのバリアフリーは全国に例がありません。市内の複数のレストラン、宿泊施設で、摂食・嚥下障がいの方向けの食事を提供できるようにすれば、ご家族に摂食・嚥下障がいの方がいらしても家族旅行ができるので、観光客は、増えます。もちろん、この政策は、弘前在住の摂食・嚥下障がいの方が市内で外食などができることにつながり、社会参加や QOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に極めて効果があります。摂食・嚥下障がいの方々は、体に障がいがなく移動にも問題がないにも関わらず、外食、外泊ができないという理由で外出、旅行が制限されていることを理解して頂きたいと思います。(60 歳代・男性)
- ・低価格でのアジア圏の観光誘客は必要ない。国民性が違うので、とまどいがある。日本、津軽、田舎なんだと理解して、この地が好きなんだという人達に足を運んでもらえるような誘客活動でよい。(50 歳代・女性)

～広域連携～

- ・北海道新幹線開業後にいかに観光客が増えるのかに期待する。(10 歳代・男性)
- ・北海道新幹線開業による連携とあるが、具体的にどのような連携をするのか。開業まであと少しなので気になる。(20 歳代・女性)
- ・北海道新幹線開通に向けて、観光分野には特に力を入れてほしいです。(40 歳代・女性)

●商工業振興 10 件

- ・継続的な経済活動。(40 歳代・女性)
- ・中心地土手町の充実。(30 歳代・男性)
- ・ヒロロができたことは、市民にとって利点だが、あまり客が入っていないように思われる。ヒロロ内の店舗を見直すか、ヒロロで行うイベントを増やす必要があると思う。(10 歳代・女性)
- ・ヒロロの商業施設の部分はどうかならないものか。もう少し、「絶対行きたい！」と思うような店舗選びをして欲しい。(30 歳代・女性)
- ・地域から起きる産業も重要だと思うが、魅力的な店の誘致も必要と思う。ヒロロは子供や生活に寄っている感じがするので、子育て世代に便利な店、たとえば東京と大阪にしかない店舗や話題の店をいち早く市内に誘致すべきと思う。弘前市民の購買意欲は低くないと思う。エルムに流れている数が意外と多いと思う。店が増えれば雇用も増える。(40 歳代・男性)

- ・ヒロロの中に特産物を使ったお料理を食することのできるお店があればいいと思います。(50歳代・女性)
- ・ヒロロは大丈夫でしょうか。青森市の「アウガ」のこの舞になるのが心配です。(50歳代・男性)
- ・若い人が、観光できた人が、弘前でお店を開きたい、商売してみたいと感じられる街づくり、空き家・空き店舗の活用が大切だと思う。(40歳代・女性)
- ・土手町商店街における手ぶらでお買物計画。商店の協力をお願いし、どこで買った物でも上・中・下土手の拠点と各駐車場の指定場所に商品を運んでくれるサービス。(40歳代・女性)
- ・土手町商店街におけるアーケード復活計画。どんな天候でも快適にショッピングできるのは重要。(40歳代・女性)

●雇用対策・労働環境 9件

- ・もっと弘前市の学生が市に定住できるように就職などの環境を整える。(20歳代・男性)
- ・要望として、地域産業に若者を雇用する取組をもっと市政でも力をいれたいと思います。(30歳代・女性)
- ・学生の町ですので、是非、雇用につなげて行って欲しいです。(50歳代・女性)
- ・大学を卒業しても地元では仕事がないと聞いています。なりわいづくりは、すぐに効果が出ないのかもしれませんが、どんどん力を入れてほしい分野だと思います。(50歳代・女性)
- ・最低賃金の上昇。(10歳代・女性)
- ・現役世代の収入をふやさないと、子どもの数も増えないと思います。弘前は、全国最低の賃金並みの水準なので、共働きも多く、子どもを産み育てにくいと実感しています。(30歳代・女性)
- ・障がい者雇用政策は実施されていますが、障がい者の経済学の視点でさらなる支援の可能性を検討していただきたい。障がい者支援は、単に就労支援するのではなく、経営的な視点を持ち込むこと、リハビリの視点から障がい者の適性を判断することなどで、もっと利益を上げ、経済的な自立につながる事が分かっています。そういう意味での支援はまだ十分とは言えません。言葉は悪いですが、「障がい者が社会のお荷物」という意識がいまだに存在します。適切な政策がなされれば、障がい者も税金を払える存在になります。それは、結果的に障がい者のためだけでなく、一般市民のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)につながっていきます。(60歳代・男性)
- ・作業のしやすい場所、環境の確保は。(50歳代・男性)
- ・就業意欲向上のため、職業紹介の機会が多ければと思う。(40歳代・男性)

●産業育成 6件

- ・地域資源の付加価値を高めるには、地元民が一丸となってその付加価値を認識する必要があると思うので、市民全体が自信を持って外部へPRできるような啓蒙があればいいと思う。(40歳代・女性)
- ・ベンチャー企業への補助や支援を行っているようですが、参加するための条件などはどうなっているのでしょうか。学都ひろさきは、他県からの大学生を残し、弘前経済を活性化させるために、土地や事務所、SOHOを行える環境を提供してほしいと思っています。(30歳代・女性)
- ・UJIターンの促進。(30歳代・男性)
- ・工場・法人に対して補助をし誘致。新規企業家のビジネスコンテストを開催し優秀な案件に対する空き店舗等の貸与、その他補助。(40歳代・男性)

- 全国に発信し人を集められるような弘前の名物料理の開発（イカメンチとかでは無く若者の食指を動かせるような料理）。(40 歳代・男性)
- リンゴ、観光以外に弘前の独自の産業、競争力のある産業を見出し、適切な支援をして頂きたい。おそらく、発展の可能性のある産業が少なからずあるはずですが、当事者の多くが、その自覚がないために、停滞しているのではないのでしょうか。アンテナショップなどは、そのための情報収集の拠点になると思います。現在、津軽の木工業者の方々と、医療、リハビリに有効な木製玩具の研究開発を行っていて、その啓発のためのイベントを実施したりもしています。市の支援も頂いていますが、一つの発展性のある産業の可能性という視点からももっと支援の可能性があるのではないかと感じています。(60 歳代・男性)

●その他 4 件

- 今まで通り継続してもらいたい。(40 歳代・男性)
- 何か好む好まざるに関わらず、言葉のシャワーでもないが、皆の頭にとりあえず残るということから始められないかと思う。(50 歳代・女性)
- 世界にも発信できる価値のあることをこの地域で発信できることを期待したい。(30 歳代・女性)
- 新地方公会計整備事業は、当面、固定資産台帳を整備することと思いますが、国においても複式簿記は採用されておられません。減価償却費の把握など、利点はあると思いますが、実現性はあるのでしょうか。(50 歳代・女性)

7. その他市政に対する意見・要望、新たに課題となっていることなど

●市政全般 9件

- ・弘前市は色々頑張っていると思う。これからも頑張って欲しい。(30歳代・男性)
- ・弘前市は自然も厳しく、実際に住んでいる市民も行政も大変だとは思いますが、さくらまつりを代表とする観光資源や、りんごなどの名産物、弘前城や岩木山などの名所など、その潜在能力は高いと思います。今後それらをより一層活用し、また民間と行政が協力し、活気あふれる明るく暮らしやすい街になることを期待しております。(40歳代・男性)
- ・いろいろな事業を行っていることがわかったので、参加できるものは進んで参加してみたいと思いました。(40歳代・女性)
- ・このようなアンケートに参加しないとわからないことがたくさんあったので、今後はいろいろな事に目を向けていきたいと思う。(40歳代・女性)
- ・弘前市経営計画を読み、弘前の実態が少しわかったような気がします。計画をできるだけ早期に実現できるよう期待します。(40歳代・女性)
- ・さまざまな施策も、つきつめると人口減少対策につながるのではないかと思います。きめ細やかな施策でも切れ目なく続けてほしいと思います。(50歳代・女性)
- ・経営計画(概要)にざっと目を通しました。市政に関わる皆様の試行錯誤の意が伝わってきます。本当にご苦労様と思います。時間がかかっても計画の実現がなりますようお願いしております。(70歳以上・女性)
- ・津軽の良さ、じょっぱりとかロベタだが、一生懸命だとか…だけでない「弘前らしさ」を構築していくべき。そういう意味でもこのひろさき未来戦略研究センターに期待したい。思い切ったことを計画してほしい。応援しています。(60歳代・男性)
- ・文化や歴史に彩られ、知的な香り漂う街「ひろさき」。私は大好きですが、そこに住む市民、特に若者には「刺激」が少ない感じがします。上品な刺激じゃなくわかりやすい刺激。クラシックもいいけれど、ロックやポップスのコンサート。野球もいいけど、バイクが空中を飛んでいくようなコンテンツ。大阪城ではRed Bullのフリースタイルモトクロスが行われました。桜まつりからは妖しさが薄れ、ねぶたまつりからも高揚が消えようとしています。静と動、両方を持つ活気あふれるまちづくりをお願いします。(40歳代・男性)

●市民活動・市民力 3件

- ・市民参加型まちづくり1%システム支援事業は、多くの成果を上げてきたと思われませんが、まつりや交流イベントが多く、内容の見直しも必要になってきていると思います(制度の廃止も含めて)。(70歳以上・男性)
- ・町会における一人暮らし、認知症者、空き家など将来もっともっと多くなるはず。これをどうするか。私はもう行政に頼っているだけでは解決はますます困難になって行くと思っている一人です。住民の総意で解決していく方向を現在模索中です。良き策はないですか。(70歳以上・男性)
- ・PTAのママ達のはものすごいです。上手な活用方法を。宝の持ち腐れだと思います。(40歳代・女性)

●市役所の仕事力 7件

- ・様々な政策が実施されているが、継続して欲しい。首長が変わるたび政策もストップしてしまい、担当職員の意識が低下し市政が低迷してしまう。(50歳代・男性)
- ・市職員の仕事に対する意欲は、人それぞれ違うと思いますが、市民が主人公ではなく、何か、上を

見ながら、上を気にしながら仕事をしているように見受けられる傾向になって来ているよう感じる。
(70歳以上・男性)

- ・市役所内の横のつながりが全く感じられなく、トップダウン方式で新しい事を始めると、理解していないのに動かざるをえなくて、その職員の方の判断が入ったりして混乱したことがありました。職員の方は謝罪の言葉は言いませんし、自分の責任だという意識が低いような気がします。自分自身の言動に対する説明責任をもう少しできた方が良いと思います。(50歳代・女性)
- ・統計のお手伝いをさせていただいていると、年が上がるについて市政は何をしているのかわからず、子育てについては色々やっているようだが、年寄りには何も…という意見がとて多いように感じる。よくよく考えるとそんなことはない訳だが、行政の市民に理解してもらおうという力のなさなのかと感じたりする。すべての人に理解してもらおう事の難しさはあるが、市民のために何かできるかを考えて仕事する弘前市職員であってほしいと願う。(50歳代・女性)
- ・まずは、市の職員を外に研修等に出したり、他県からの人材を職員に採用したり、他県から来た市民の意見を市の職員が聞く場を設けるなどから始めるのもいいと思います。そして、それを一般市民に広げていってほしいです。(60歳代・男性)
- ・もっと旅行や勉強、仕事で弘前、青森から出て日本の他の地域や世界を知るべきです。そして弘前に戻って、最終的には、弘前の街を総合的な意味で良くする人材として活動すべきです。また、他県から移住してきている人の意見をもっと聞くべきです。まずは行政からそれを始めるべきだと思います。弘前のアンテナショップは、首都圏などにありますか？そういうシステムも一つのきっかけになると思います。(60歳代・男性)
- ・職員の仕事力強化、意識高揚のための方策も大切。賞与の工夫をすることにより仕事力を強化。見えないところで努力をしている人も大切。数値化だけでなく、口コミなども取り入れるとか。(60歳代・男性)

●市民との対話・情報発信 4件

- ・市政では、市のために様々なすばらしい活動を行っているにもかかわらず、そのことが市民に伝わっていないと感じる。実際に私も、このモニターを通して知った事実がたくさんあった。もっと市民に、市政の活動を理解してもらい、より意欲的になってもらうことで、より良い弘前をつくっていくことができると思う。そのためには、市政の活動を紹介する機会を設けたり、市民が市政の活動に参加できる場を設けたりする必要がある。そうすることによって、市民の意識を高めることができるだろう。これからの市政の新たな活動に期待しているので、頑張ってもらいたい。(10歳代・女性)
- ・統計調査員として色々な人とお話する機会があります。そして思うことは“役所の事は面倒で難しい”と一般市民の多くが思っているということです。せっかくのアイデアが、企画が、多くの人々に認知してもらえていない、理解してもらえないのは、とても残念で、もったいない事です。まずはそこを考えてみるのが実は一番大事だと思います。(40歳代・女性)
- ・多くの方が沢山の問題点と、その解決のためのアイデアを持っています。でも、改めて紙面に表現したり、人前で発表するのは難しいようです。でも茶飲み話、井戸端話ではとてもいい話がきけるように思います。比較的、敷居が高く思われる様々な企画、事業を理解してくれる人が、そんな場所で、それこそ口コミで多くの人々に伝えていけるシステムが出来ればPRがもっと楽にできるのかなとか思っています。(40歳代・女性)
- ・地区の市政懇談会に何度かおじゃましたことがあります。時間も限られているので、何かいつもじっくりしない終わり方で、残念に思っています。地区での問題点をじっくり意見交換出来ないものでしょうか。(70歳以上・女性)

●政策効果モニターアンケート 3件

- ・今回は初めてで勉強不足のところもありましたので、今後市の事業やホームページなどをみながら、より良い市政へ結びつくようなコメントをしたいと思います。(60歳代・男性)

- とりあえず思ったことをかいてみましたが、参考とまではいかず本当に申し訳ないです。これを機にこういったことに関心をよせていきたいと思います。いつも弘前のためにご尽力していただきありがとうございます。微力ではありますが、何かありましたら協力させていただきますので、これからも弘前のため、子ども達のため頑張ってください。(30歳代・女性)
- 今回のアンケート結果をモニター者に回送をしていただきたい。(70歳以上・男性)

●エリア担当制度 2件

- エリア担当制について、地区の町会長会議などに市のエリア担当が出席されておりますが、日曜日など休日に開催される会議にわざわざ職員の方が(お忙しい課長さんも)お出でいただき、感謝しております。お忙しいと見え、受付に挨拶もせず、そそくさと会場に入って行かれた課長さんがおられました。「あれが幹部」と思いましたが、相当多忙なのだと推察します。担当課長さんやご担当には、地区からいくらかでも要望(苦情)を申し上げます。職員の皆様には、市役所での本エリアの業務に活躍していただきたいので、エリア担当は不要です。エリア担当制度の廃止を要望します。(50歳代・女性)
- エリア担当の職員の仕組みが発足し、数年になります。町会側の要望ですが、エリア担当職員の方から町会に連絡をとり、町会側と話すような機会を作ってはもらえないものでしょうか。これまで担当職員の方からあいさつなり連絡を受けたことは、一度もありません。(70歳以上・男性)

●庁舎管理 2件

- 市役所庁舎内に弘前大学病院のようなエレベーターの入口、階段に各課の案内板を付けてほしい。(50歳代・男性)
- この頃強く感じているのが、市役所の立体駐車場を作ったにもかかわらず、大変混んでいるようで、用事がある行ってもなかなか入れない。今工事をしている事もあるかと思いますが、岩木庁舎も工事はしていますが、中はガラガラですね。もう少し利用出来たらよいのではないかと思います。(70歳以上・女性)

●その他 9件

- 戦略推進システムの中で、好感を持っている項目
 - ①継続事業の市民参加型まちづくり1%システム
 - ②今年度から始まった市民活動保険運用事業
 - ③いいかも!!弘前応援隊事業

①・②は、市民が様々な活動に楽しく意欲を持ち、安心して取り組める制度なので、感謝しながらボランティア活動に取り組むことができます。③は、全国どこからでもふるさと弘前への想いを届けることができ、そのことで旧交を温めたり、応援する側もされる側も幸せを感じることが出来るすてきな制度だと思っています。どれも継続することを願っています。(70歳以上・女性)
- 主任児童委員の選考について、主任児童委員本人の意思に反して、地区民生委員長の独断で、委員退任の手続きをした例があり、退任の書類を受理の際に、意思を直接本人に確認するシステムを設ける必要があります。古参の委員長に意見を言えないことが常態となっていると推察します。活発な委員会活動とするため、委員の選考及び委員長を含めた研修制度の充実を要望します。(50歳代・女性)
- 具体的に何をどうしたのか。その結果がどうなったのか、数字で示すなどしてはどうか。抽象的なものがまだまだ多い印象。(30歳代・男性)
- 住みやすい、快適な街になるには遠いという印象。(30歳代・男性)
- イベントに力を注ぐのもいいが、より政治的な政策実現が必要であると感じる。(30歳代・男性)
- オールひろさきという文言をよく使っているが、日本語に訳すとどういうことか、その他でも外国語が多いので、言葉の説明(どう解釈して用いているのか)が必要と思われる。(60歳代・男性)

- 相談したい住人がいても、どこに相談すればよいかわかりにくいので、もう少しわかりやすくすればよいと思います（看板、ポスターの設置等）。(10 歳代・女性)
- 地区各種団体、委員会会計の適正処理について、地区公民館、地区各種団体などの会計処理の方法は、地区に任されています。仕事の合間を見てボランティアで運営されている部分ではありますが、最低限の透明性が必要です。現金の通帳管理、帳簿記載、使用明細の保存などが行われていないものがあり、使途不明の原因になる危険があります。地域選出の公民館職員の研修などを実施し、適正処理の啓発が必要です。(50 歳代・女性)
- 選挙権が 18 歳に引き下げられましたが、それぞれの学校で投票できるようにすると 18~19 歳の投票率はあがってくると思います。今までのように、決まった場所に投票しに行くのでは、大半の人が面倒臭がって投票にはいかないと思います。(10 歳代・男性)